

特 62
628

註 細 解 表

書 全 答 問

編 三 十 第

東洋史

中等教育學會編纂

明治
45. 7. 5
丙寅

凡例

一 本書ハ、問答全書ノ内東洋史ヲ茲ニ公ニセリ。中學校、高等女學校、師範學校又ハ是等ト同等若クハ稍以上ノ程度ニ於テ、東洋史ヲ分解シ、大項目ノ下ニ排列シ、治亂興亡ノ跡等ニ就キテ、其ノ萃ヲ拔キタルモノナリ。

二 本書ノ目的ハ、如上ノ學校等ニ於ケル受験者ノ參考トシテ編述シタルモノニシテ、唯事項ヲバ、最モ簡潔ニ排列シテ、其ノ大體ノ要ヲ知得セシメ、更ニ註トシテ、直接若クハ間接ニ關係アル事項ヲ登載シタリ。

三 本書ニ載スル所ノ紀元ハ、我が神武天皇即位紀元ヲ以テ
セリ。

明治四十五年六月

編者識

(2)

細圖註解 東洋史目次

第一編 總論

- 一 東洋史……………一
- 二 支那歴史ニ關係ノ重ナル
人種……………二

第二編 上古

- 一、三皇五帝
- 一 支那文化ノ由來……………四

- 二 三皇……………四
- 三 五帝……………五

二、夏、殷、周

- 一 夏……………八
- 二 殷……………九
- 三 周……………三
- 四 周ノ末路……………七
- 五 五霸ノ事蹟……………三
- 六 吳越ノ勝敗……………五

(1)

目

次

(2)

七	戰國ノ七雄	二七
八	秦ノ勃興	三〇
九	周末ノ學問	三五

第三編 中古

一	秦始皇帝ノ事蹟	四〇
二	秦ノ滅亡	四二
	一、漢	
一	漢楚ノ争	四七
二	高祖ノ事業	五一
三	吳楚七國ノ亂	五三

四	文帝ノ治績	五五
五	武帝ノ功業	五八
六	武帝ノ新法	六〇
七	中世ノ事蹟	六三
八	王莽ノ篡奪	六五
九	光武帝ノ事蹟	六八
一〇	佛教ノ起因ト結果	七四
一一	匈奴、西域、鮮卑	八一
一二	大秦國	八三
一三	外戚、宦官、黨人ノ專横	八四
一四	群雄割據	八六
一五	赤壁ノ戰	九〇

(3)

一六	三國分立	九二
一七	東漢滅亡	九二
一八	三國攻争ト其ノ滅亡	九三
一九	武帝ノ政治ト其ノ影響	九七
	三、五胡十六國ト東晉	
一	五胡ト十六國	一〇〇
二	東晉ト南北朝	一〇七
三	後魏	一一四
四	北朝ノ沿革	一二七
五	南朝ノ沿革	一二七
六	南北朝時代	一二八
	四、隋、唐	

一	文帝ノ治績	一三〇
二	煬帝ノ事蹟	一三〇
三	唐ノ滅亡	一三三
四	貞觀ノ治	一三五
五	官制ト其ノ他ノ制度	一三六
六	唐初ノ屬領ト管治	一三三
七	唐代ノ外交	一三五
八	宗教ト文化	一四二
九	武章ノ亂	一四四
一〇	開元ノ治	一四六
一一	安祿山ノ亂	一四八
一二	唐ノ滅亡	一五〇

(4)

五、五代

- 一 五代……………一五二
- 二 五代ノ興亡……………一五三
- 三 渤海ト契丹……………一五五
- 六、宋、金、遼
- 一 宋ノ一統……………一五六
- 二 宋代ノ學問ト宗教……………一六二
- 三 遼ノ聖宗ノ治……………一六三
- 四 仁宗ノ治……………一六三
- 五 遼ノ興起……………一六四
- 六 王安石ノ新法……………一六七
- 七 宋、金ノ關係……………一七〇

第四編 近古

一、蒙古

- 一 蒙古興起……………一七四
- 二 太宗ノ事蹟……………一七六
- 三 世祖ノ一統……………一八三
- 四 世祖ノ政治……………一八六
- 五 東西交通……………一八七
- 六 元ノ滅亡……………一九二

二、明

- 一 太祖ノ事業……………一九四
- 二 靖難ノ變……………一九六

(5)

- 三 成祖ノ事業……………一九七
- 四 帖木兒ノ事業……………一九八
- 五 明ノ文學ト宗教……………二〇一
- 六 莫臥兒帝國ノ興亡……………二〇三
- 七 東林ノ獄……………二〇四
- 八 明ノ衰運ト滅亡……………二〇八

第五編 清

一、清

- 一 清ノ興起……………二二二
- 二 太宗ノ事業……………二二三
- 三 世祖ノ統一……………二二四

- 四 官制ト兵制……………二二八
- 五 聖祖ノ事業……………二三〇
- 六 高宗ノ事業……………二三一
- 七 文學ト宗教……………二三三
- 八 東洋ニ於ケル英佛蘭諸國ノ抗爭……………二三五
- 九 英國ノ印度占領……………二三六
- 一〇 阿片戰爭……………二三八
- 一一 長髮賊ノ亂……………二三九
- 一二 英佛同盟軍北京陷落……………二四一
- 一三 露國ノ東方侵略……………二四三
- 一四 英露ノ關係……………二四五

(6)

一五 佛國ノ後印度占領……………三三

一六 東亞ニ於ケル歐米ノ活動……………三九

一七 亞細亞ニ於ケル現勢……………二四

一八 清國多難……………二四

(終)

細表註解 東洋史

中等教育學會編

第一編 總論

(1)

一、東洋史

重ニ東方亞細亞ニ於ケル種族ノ興亡、國家ノ隆替、盛衰等ニ關シ、古來ノ沿革ヲ明カニスルガ爲メノ歴史ニシテ、西洋ト相並ビテ、世界史ノ一半ヲ構成スルモノヲ云フ。然レドモ中央亞細亞及ヒ南方亞細亞ノ沿革モ、直接間接ヲ問ハズ、其ノ關係アルモノハ、之ガ大略ヲ説述ス。

イ、苗人種

現今貴州、雲南ノ地方ニ住居ストイヘドモ、太古ニアリテハ、楊子江、黄河ノ流域ニ棲息セリ。後、漢人種ノ西地ヨリ徙リ來ルニ會シ漸ク斥ケラレテ、其ノ勢力ヲ失墜スルニ至ル、

支那歴史ニ關スル

ロ、漢人種

苗人種ヲ斥ケテ、勢力ヲ占メタリシガ、周ニ至リテ、蒙古人種ノ侵略ヲ受ケ、戰國ノ際ニハ、匈奴北邊ニ寇シタリ。秦ガ天下ヲ一統スルニ及ビテハ。萬里ノ長城ヲ築キテ、其ノ侵寇ヲ防ゲリ。漢ノ武帝ノトキニ至リテ蒙古人種ヲ沙漠外ニ驅逐シ、四方ヲ開拓シテ、漢人種ノ勢力、甚ダ旺盛ナリキ。降テ三國ヨリ西晋ニ至リテ、漢人種ノ衰亂スルニ至リ、蒙古、滿洲、西域等ノ各人種ガ、内地ニ侵入シテ、其ノ勢力

二、係ノ重ナル人種

振ハザリケルガ、隋ノ海内ヲ一統スルニ及ビテ、勢再ビ盛ナリ。唐ノ太宗ノトキ、西域ノ種族ヲ征略シ、漢人種ノ勢威ハ、絶域ニ振フニ至レリ。然ルニ唐ノ中世以降ハ、蒙古、西藏、回回ノ各人種ガ來寇スルコト數々ニシテ、昔日ノ如クナラザルナリ。後宋ノ太祖、漢人種ヨリ起リテ、國ヲ立テタリケルガ、宋ハ、蒙古人種ニ、明ハ、滿州人種ニ斥ケラレタリ。今日ノ清朝ハ、即チ滿州人。

- ハ、蒙古人種。
- ニ、滿州人種。
- ホ、回回人種。

〔漢人種參照〕

第一編 上古

一、三皇、五帝

支那文化ノ由來

一、事實

1、苗族

太古夙ニ楊子江ノ流域ニ居ヲ占メ、以テ生活ヲ營ミタル人種ナリ。然レドモ後、漢人種ノ漸ク跋扈スルニ至リテ追ハル。

2、漢族

此ノ人種ハ、支那文化ノ根元ヲナシタルモノナリ。多クハ黃河ノ北ニ土着シ、漸次其ノ沿岸ニ於テ、蕃殖シ、苗族ヲ驅逐シ、支那ノ文明ヲ發達セリ。

二、三皇

イ、燧人氏… 飲食物ヲ煮燒スルコトヲ教フ。

ロ、伏羲氏… 八卦ヲ案出シ、漁法ヲ教フ。

ハ、神農氏… 農業、貿易、及ヒ醫藥等ノ事ヲ教フ。

イ、黃帝

舟車、貨幣、文字、音樂、曆法、數學、開墾、養蠶及ビ造營等ノ事ヲ教ヘ、且ツ之ヲ始ム。

ロ、顓頊

項… 黃帝ニ次テ立ツ。

ハ、帝嚳

… 顓頊ニ次テ立テリ。

二、帝堯

- 1、… 平陽ニ都ヲ奠ム。
- 2、… 聖徳高クシテ、無爲ニシテ天下能ク治マル。
- 3、… 曆法ヲ定ム。
- 4、… 大洪水アリテ、大ニ困難ヲ極メ、リシガ、鯀ヲシテ之ヲ治メシム。

1、由來

至孝且ツ賢明ニシテ、聖徳高シ。堯ニ技擢セラレテ、帝位ニ即ク。

(5)

三、五帝

古

(6)

ハ、帝舜

2、治績

い、賢臣

禹、皋陶、稷、契等ノ如キ人ヲ用フ。

A、内政

禹ヲ百揆ニ拔キ、庶政ヲ總覽セシメ、棄ヲ后稷トシテ、農事ヲ統ベシメ、契ハ教育ヲ、垂ハ百工ヲ治メ、皋陶ハ士トナリ、刮辟ヲ治メ秩宗伯夷ハ、神祇ヲ祭り龍ハ納言トシテ以テ出納ス。益ハ虞トナリテ山澤ヲ支配シ、夔ハ、典樂トナリテ、音律

ろ、政治

(7)

二、夏、殷、周

イ、夏ノ禹

2、治績

遂ニ舜ニ代リテ、帝位ニ登ルニ至ル。安邑

1、由來

帝完ノトキ、治水ノ功アリ。之ニ依リテ、舜ノ拔擢ヲ受ケテ、天子ノ位ニ登ル。國號ヲ夏ト云フ。

B、外政

ノ事ヲ司ル。地方ニハ四岳十二枚ヲ置ク。版商ヲ擴張シ、以テ苗人種ヲ驅逐セリ。

一、夏

ニ都シ、能ク帝舜ノ政ヲ施シテ、天下頗ル其ノ德ニ服シ、帝權イヨク強ク、國運開カントス。

3、王位世襲

禹ノ歿スルヤ、ソノ子啓ヲ推シテ、天子トナス。世襲君主ノ基礎是ニ於テカ定マル。

口、變亂

諸侯ニ不運ノモノアリ、其ノ曾孫相ノトキ、有窮ノ后羿及ビ其ノ臣寒浞ノ亂相次デ起リ、相ノ子少康ハ、舊臣ヲ招キ、不忠ヲ誅伐シ、又夏道ヲ中興スルニ至ル

ハ、滅亡桀王

淫虐暴戾ニシテ、忠良ヲ退ケ、人望ヲ失フ、殷ノ湯王ニ亡サル。

1、由來

夏后武ノ諸侯タル帝舜ノ名臣、契ノ後ナリ。

二、殷

イ、殷ノ湯

2、治績

伊尹ヲ用ヒテ、諸侯ヲ服シ、夏ヲ滅ボシテ、桀王ニ代リテ、天子トナリ、亳ニ都ス。國ヲ商ト號ス。

1、沿革

後十數傳シテ、盤庚ニ至リ、都ヲ殷ニ遷シ、國號ヲ殷ト改ム。後更ニ十一傳シテ、舜辛ニ至リテ亡ブ。

2、滅亡

舜辛ニ至リテ、微子、箕子、比干等ノ諫言ニ耳ヲ傾ケズ、只暴虐ノミヲ擅ニナシタリシカバ、周ノ武王ハ、之ニ乘ジテ、殷ヲ滅シ、以テ天子トナル。

口、沿革ト滅亡

其ノ祖先ヲ棄ト云フ。唐虞ノ際、后稷ノ官トナリ、郤ニ封ゼラン、後、夏ノ亂ニ逢フテ、西戎ノ間ニ、

イ、起源

古公亶父ニ至リ、復内地ニ移リ岐山ニ國シ、始メテ國號ヲ周ト號ス。

1、文王

吉公亶父ノ孫文王(昌)ハ、呂尙(大公望)散宣王、大顛閔天等ノ諸賢ヲ用ヒテ、專ラ仁政ヲ施シ、多クノ諸侯ヲ服シテ、尙ホ殷ヲ伐タズ。

ロ、文王ト武王

2、武王
亡殷ヲス

文王ノ死後、其ノ子發立ツ。之ヲ武王ト云フ。時ニ殷ノ紂王ノ暴戾甚ダシカリシカバ、天下ノ人心、悉ク離散シタリシヲ以テ、武王ハ、諸侯ヲ率キテ、終ニ殷ヲ滅シ、以テ天下ヲ一統ス。(神武天皇紀元一六二二年)後、鎬京ニ都ヲ奠ム。

ハ、封建制度

1、賢臣...武王、帝位ニ即キ、賢臣之ヲ輔佐ス。
2、制度...公、侯、伯、子、男ノ五爵ヲ設ク。
3、成王ト周公

武王死シテ、成王嗣グ。周公之ヲ輔佐ス。周公ハ、賢明ニシテ、治國ノ術ニ悉シ、官制ヲ設ク。

A、天

長官大冢宰...六官ヲ統ベ重要ノ國務、財政及ビ宮内ノ事ヲ司ルモノ。

B、地

長官大司德...農商、教育及ビ警察ノ事ヲ司ル。

C、春

長官大宗伯...祭祀、典禮ヲ司ル。

S、六官

三、周

二、周ノ官

1、中央

D、夏(軍、旗兵馬ヲ司ル。

E、秋(長官大司寇…刑罰、訴訟ヲ司ル。

F、冬(長官大司空…水利、土地ヲ司ル。

A、三公(太師、太傅、太保ヲ云フ。

ろ、三公ノ孤
B、三孤(少師、少傅、少保ヲ云フ。

い、閭(二十五家ヨリ成ルモノナリ。閭胥事ヲ司ル。

ろ、族(百家ヨリ成ル。族師事ヲ司ル。

ホ、周ノ租田

2、地方

は、黨(五百家ヨリ成ル。黨正事ヲ司ル。
に、州(二千五百家ヨリ成ル。洲長事ヲ司ル。
は、郷(一萬二千五百家ヨリ成ル。大夫事ヲ司ル。

1、由來

夏ノ貢法、殷ノ助法ヲ適用シタルモノニシテ、之ヲ徹法ト云フ。

2、田租制

い、田制

井田ノ法ヲ用ヒ、九百畝ヲ以テ、一井トシ、其ノ内百畝ヲ以テ、公田トナシ、其ノ八節ヲ以テ、八家ニ授ケテ、其ノ所得ヲ私有セシメ、共ニ公田ヲ耕シテ、租税トナス。

兵制

田制ニ基キテ、士、卒、牛馬、兵卒ヲ徵集シ、以テ軍ヲ編制ス。一軍ハ、一萬二千五百人ニシテ、天子ハ、六軍、大國ハ、三軍、中國ハ、二軍、小國ハ、一軍ヲ置ク。

租稅

公田ノ收穫ノ外、毎一家絹布若干ヲ納メ、力役ニ一年三日間、四百姓ヲ使役セリ。

1、教育

い、大學

A、己ヲ修メ、人ヲ治ムルノ道ヲ講ズ。
B、禮樂射鄉書數ノ六藝ヲ學ブ。年齢ハ、十五歳ヨリ二十歳マデ。

ろ、小學

洒掃、應對、起居、進退ノ制度ヲ學ブ。八歳ヨリ十四歳マデ。

い、子ハ、父母、對シテ、絶對的ノ服從ヲナスモノトス。

ろ、父母ノ喪ハ、三年トス。其ノ他ノ血族ハ、喪期各相異ナレリ。

は、喪期ニアリテハ、喪服ヲ着クベシ。父母ノ祭日ニハ、尸ヲ設ケテ以テ、神事ス。

に、天子ハ、日月星辰ヲ祭ル大禮。

い、衣食階級制度ニテ、極メテ嚴ナリ。天子諸侯貴賤ニ應ジ、各々區別ス。

ト、文物

2、禮儀

は、喪期ニアリテハ、喪服ヲ着クベシ。父母ノ祭日ニハ、尸ヲ設ケテ以テ、神事ス。

に、天子ハ、日月星辰ヲ祭ル大禮。

い、衣食階級制度ニテ、極メテ嚴ナリ。天子諸侯貴賤ニ應ジ、各々區別ス。

3、風習

ろ、職業
士農工商ハ、孰レモ皆其ノ業ヲ世襲ス。

A、七歳以上ハ、男女交際ヲ許サレズ。

B、男兒ハ、八歳ニシテ學ニ就ク、女子ニハ斯ノ制ナシ。

C、男子二十歳ニシテ加冠ス。女子ハ、十五歳ニテ笄ヲ加フ。

D、男子三十歳、女子二十歳ハ、婚姻ノ期トス。

E、男子ハ、名ノ外ニ字ヲ有シ、名ハ自己ヲ呼ブニ又字ハ、人ヲ呼ブ時ニ用フ。

は、別男女

四、周ノ末

イ、春秋ノ世

周室既ニ衰微シ、諸侯ハ恣ニ相攻伐シテ、勝敗常ナク、戎狄ハ、内地ヲ犯シタリシガ、覇者互ニ相起リ、諸侯ヲ糾シ、王室ヲ尊ビ、戎狄ヲ攘ヒ、一時平和ヲ來タス。此ノ時ヲ春秋ノ世ト云フ。

1、由來
周室益々衰運ニ傾キ、諸侯ハ、王命ヲ借リテ、小諸侯ヲ統べ、互ニ天下ニ號令スルニ至レリ。此ノ際ニ於ケル大小ノ諸侯ハ、スベテ十二列國ナリ。

い…齊ノ桓公。
ろ…宋ノ襄公。

は…普ノ文公。
に…楚ノ莊公。

ほ…秦ノ穆公。

F、妻ハ、夫ノ命ヲ受クル所ノ家事ヲ行ヒ、位置極メテ低シ。

圖

1、武王ノ起ルノ地勢

周ノ興起シタルハ、武王ノ英武ニノミ依ルト云フベカラズ。是レ武王ノ時勢ニハ、現今ノ陝西、甘肅地方ヲ領シ、四川ノ地方ニ於テモ亦其ノ有タリ。今是等ノ地方ノ形勢ヲ按ズルニ、何レモ東面シテ天下ヲ爭フニ好都合ナリシナリ。後世秦、漢、隋、唐ノ諸國モ、亦此ノ地方ニ據リテ天下ヲ併有シタリ。故ニ周武ノ忠勇、武王ノ英武ニモ依ルナルベシトハ云ヘ、地方ノ形勢ノ與ヘタル自然ノ動力モ亦少ナカラズ。

周ノ武王、紂ヲ討ツニ際シ、伯夷叔齊道ニ之ヲ諫メテ曰ク、父死シテ葬ラズ爰ニ干戈

2、伯夷叔齊

ニ及ブ孝ト云フベケンヤ。臣ヲ以テ、君ヲ弑ス。仁ト云フベケンヤト。齊之ヲ兵セントス。武王曰ク、義子ナリト。即チ扶ケ去ラシム。既ニシテ、武王、紂ヲ亡シ、天下ヲ一統スルニ及ブヤ、伯夷叔齊、周ノ粟ヲ食フヲ耻ヂ、首陽山ニ隱レテ、終ニ餓死シタリト云フ。

管仲ノ望ヲ用ヒ、農業殖産ト強兵トヲ圖レリ。之ニ依リテ兵農ノ別ヲ立ツ。

専ラ諸侯ヲ會シテ、山戎北狄ヲ征ス。

イ、齊桓公ノ覇業

1、業事

は、……周室ニ貢セザル所ノ宋ノ成立ヲ攻メテ、之ト共ニセンコトヲ誓ハシム。

に、……諸侯ヲ會シテ列國ノ平和ヲ計レリ。

は、……桓公、管仲ノ死スルニ至リテ、五公子互ニ相立タンコトヲ争フテ漸次衰亡ス。

管仲ハ、桓公ヲ助ケテ、大經倫策ヲ施シ、其ノ事業ノ見ルベキモノ少ナカラズ。其ノ國內ヲ治メテ、富強ヲ圖リ、且ツ海岸ニ瀕スルノ

ロ、宋ノ襄公ノ覇業……1、事實

註 管仲ノ大經倫

國ナルヲ以テ、魚鹽ノ稅ヲ取リ、國帑ヲ富マシ、周公ノ意ヲ繼ギテ、兵制改革ヲナシ、兵ヲ農ニ寓スル組織トナシテ、兵ヲ強大ニナシ、諸侯ヲ匡サントシ、北杏ニ會シテ、宋ノ亂ヲ平ゲ、柯ノ會ヲナシテ、魯ノ侵地ヲ返シタル等、諸侯ノ信ヲ得ルニ至レリ。桓公ノ覇タルニ至リシハ、偏ニ管仲ノ力ナリト云フベシ。

桓公ニ次デ、霸ヲ稱ス。然レドモ國土小ニシテ、賢臣ナク、治國ノ基ハ、固カラズ。

五、五霸ノ事蹟

八、晋ノ文公……一、事實

ろ、……楚ト戦ヒテ、大敗ス。

周ノ襄王ヲ保護シ、王ヲ帶ヲ誅シ、尊王ノ實ヲ擧ゲタリ。

宋ヲ扶助シ、楚ヲ破リテ、盟主トナル。

は、絳ニ都ヲ奠メ、後百餘年間ハ、賢主相次デ覇ヲ稱ス。

い、興起 始メテ渭水ノ上流ニ國ヲ建ツ 周室東遷ニ際シ、岐豊ヲ得テ、漸ク強大トナルニ至ル。

〔註〕 渭水ハ甘肅省ノ秦州ニアリ。

二、秦ノ穆公……一、事實

ろ、西方ノ雄鎮 穆公ハ、襄公五世ノ孫ナリ。百里奚、蹇叙、山餘等ノ輔佐ヲ以テ、地ヲ拓キ、國ヲ合セ、西方ノ雄鎮トナル。

は、構兵 穆公ノトキ、晋ト隙ヲ生ジ、兵ヲ構フルコト七十餘年ニ及ブ。

い、莊王ハ、秦晋ノ争ニ乗ジテ、南方ニ覇ヲ稱スルニ至ル。

ろ、水、楚ノ莊公……一、事實 百濮、陸渾等ト相戦ヒテ、之ヲ破リ、洛水ノ上ニ至リ、兵ヲ周ノ境上ニ觀シ、以テ周ノ鼎ノ輕重ヲ問

ヒ、之ニ依リテ以テ、周室ヲ圖ルニ至ル。

陳鄭晋等ト相戰ヒテ、之ニ勝チ、宋ニ和ヲ許シ、其ノ版圖大ニ擴張スルニ至ル。

吳王壽夢死シ、王僚位ヲ繼ギ、閻之ヲ弑シテ自立シ、伍子胥ト意ヲ合セテ、楚ヲ伐チ、次デ越王勾踐ト戰ヒテ死ス。又當時吳ト越トハ、世讎ニシテ、越王勾踐ノ父、允常ハ、嘗テ閻ノ爲メニ破ラレタルヲ以テ、勾踐ハ、其ノ辱ヲ雪

六、吳越ノ勝敗ノ事實

1、原因

ゲリ。閻ノ子夫差父ノ爲メニ、仇ヲ復セント欲シ、臥薪嘗膽二年、句踐ト會稽山ニ戰ヒテ、降ヲ請フ。

越ハ、新ニ勃興シテ、南ヨリ吳ノ國ヲ侵ス。吳王、越王勾踐ト戰ヒ、傷キテ死ス。

閻ノ子夫差、父ノ仇ヲ報ゼント欲シ、朝夕臥薪嘗膽、終ニ越軍ヲ破リ、勾踐ヲ會稽山ニ圍ミ之ヲ降シテ、和ヲ赦ス。次デ齊ト戰ヒテ、之ヲ破リ以テ覇ヲ稱ス。

2、經過

イ、時代

春秋ノ末、諸侯ハ、倍臣ノタメニ國ヲ奪ハレ、晋ハ分レテ、韓、魏、趙ノ三國トナリ、齊ハ、田氏ノ國トナル。時ニ楚ハ南ニ、秦ハ西ニ、燕ハ東北ニ據リテ、王號ヲ稱シテ強ヲ争フ。周ノ威烈王以後二百餘年ノ間ナリ。

3、結果

越王ハ、兵ヲ舉ゲテ、之ヲ攻メ、遂ニ之ヲ滅シテ、其ノ地ヲ併セ、一時覇ヲ稱シタリト雖モ、勾踐ノ歿後、楚ニ征服セラレ。

勾踐ハ、膽ヲ坐臥ニ懸ケ、仰ギテ之ヲ嘗メ、茫蝨トトモニ、之ガ恢復ヲ企圖シ、寸時モ忘レザルナリ。

七、戰國ノ七雄

ロ、事實

ハ、七雄

文武周公ノ道德地ヲ攘ヒ、周室ノ勢力ハ、漸ク微弱ニ趣キ、諸侯ハ弱肉強食唯之ヲ事トス、

秦、齊楚、趙、燕、魏、漢ヲ云フ。

孝王、銳意政治ニ勵ミ、英明賢主ノ名夙ニ現ハル。名臣商鞅ニ政治ヲ託ス。

商鞅ハ、衛ヨリ招カレテ、素ニ來リ、寄強ノ策ヲ講ゼントス。農ハ國富ノ本ナリトナシ、井田ノ阡陌ヲ破リテ地力ヲ盡スノ計ヲナシ、民力ニ任セテ、之ヲ耕耘セシメ、多クハ粟帛ヲ致スモノハ、其ノ役ヲ免ズ。秦ノ地ハ、廣クシテ、人

1、事實

イ、勢力

商鞅ノ経

口少ナキヲ以テ、戸ヲ増スノ計ヲナシ、二男以上ヲ有スルモノハ之ヲ分家セシメ、之ニ背クモノハ、其ノ賦ヲ倍シ、移住、開墾ヲ計ル。又法ヲ以テ治國ノ根本トナシ、人民ノ什伍ヲ設ケ、軍功アルモノハ、封ヲ授ケ、宗室ト雖モ、軍功ナキトキハ、宗室ノ籍ニ入ルコトヲ得ズ。私闘ヲナスモノハ、刑ヲ加ヘ、姦ヲ告グルモノハ、賞ヲ與フ、姦ヲ匿スモノハ、敵ニ降リタルト刑ヲ同ジウス。後十年ヲ經タルニ、國內大ニ治マリ、富强ヲ致セリ。

口、合従策

2、事實

西ニ向ヘバ、秦必ズ破レン。大王ノ爲メニ圖ルニ六國從親シテ、秦ヲ擯クルニ如カズ

2、結果

十余年ノ後、國富ミ、兵強ク、他ノ六國ヲ併吞セントスルノ勢力ヲ加フルニ至レリ。

1、原因

秦ノ勢力ノ漸次強大トナリ、他ノ六國ヲ併吞セントスルノ傾向アルヲ以テ、六國同盟シテ秦ニ當ラントスルニ出デタルナリ。

蘇秦ハ、洛陽ノ人ナリ。嘗テ秦ノ惠文王ニ遊説シテ用ヒラレズ。依テ縱横ノ策ヲ講ジ、秦ニ當ラントス。即チ先ツ燕ニ赴キ、文王ニ趙ト從親スベキ利ヲ説キテ、諸侯ノ地、秦ニ五倍シ、卒ハ十倍セリ。カヲ協セテ、秦ニ向ヘバ、秦必ズ破レン。大王ノ爲メニ圖ルニ六國從親シテ、秦ヲ擯クルニ如カズ

八、秦ノ勃興

3、結果

ト。肅侯之ヲ可トシ、厚ク蘇秦ニ資シ、他ノ五國ヲ説カシム。是ニ於テ、六國ノ合從是ニ成リ、蘇秦ハ、從繼ノ長トナリテ、趙ニ歸レリ。

秦ハ、六國ノ合從成レルヲ聞キ、大ニ之ヲ患ヒ、之ヲ破ル。而シテ蘇秦ハ、齊ニ走リテ殺サル。

註

蘇秦ノ合從策ノ成功セルハ、當時ノ形勢ノ然ラシメタル所以ニシテ、秦ハ、商鞅ヲ用ヒテ、頻リニ富國強兵ノ策ヲ講ジ、以テ諸侯ヲ統一セントス。他ノ諸侯ハ一モ之ト拮抗スルノ勢力ヲ有スルコトナク、趙、韓、

1、原因

魏ノ如キハ、秦ト境ヲ接シ、常ニ恐怖シテ、剝奪セラル、患アリ。此ノ時ニ當リテノコトナルヲ以テ、終ニ成功セルモノナリ。秦ハ、合從策ヲ患ヒ、之ヲ破壊センコトヲ欲シ、他ノ六國ヲ服從セシメントスルニ出ヅ。即チ六國ハ、トモニ秦ニ仕事シ、六國中ノ一國、之ニ違フトキハ、五國之ヲ討ツト云フニアリ。

張儀ハ、魏人ナリ。蘇秦ノ合從ヲ遊説セルトキ、秦ニ客卿トナリ、合從ヲ破リ、連衡ヲナスヲ以テ、其ノ目的トナシ、魏王ニ説キテ、反獲ナル蘇秦ノ陰謀ノ頼ムニ足ラサ

ハ、策 衡 2、事實

ルヲ説明シ、以テ秦ニ成ヲ請ハシム。秦、張儀ヲ相トナセリ。又楚ノ懷王ヲ欺キテ、齊ト絶タシメ、後再ビ懷王ニ説キテ、秦ト約スベキヲ、或ハ虚喝、之ヲ威脅シ、或ハ甘言以テ、王ヲ誘ヒ、終ニ説服セリ。夫ヨリ張儀ハ、韓ニ、齊ニ、趙ニ説キテ秦ニ仕事スルノ利ヲ説キ、之ヲ悉ク説服シテ、六國ハ、終ニ秦ニ事フルニ至レリ。張儀、秦ヲ去ルニ及ビテ、連衡策ハ、遂ニ破ル、ニ至ル。後策士、食客等、諸侯ノ間ニ合連ノ説ヲ唱へ、諸侯ハ交戦シツ、次第ニ衰フルニ至ル。

3、結果

二、秦ノ一統

1、原因

六國ハ、其ノ方針ノ常ニ變更セルニ乗ジテ、范雎ノ策ニ依リ、諸侯ノ勢力ヲ滅殺シ、之ヲ覆スノ準備ヲナス。

2、結果

周ノ赧王、窃ニ六國ヲシテ、秦ヲ討タシメ、ンコトヲ謀リシガ、召襄王ハ、周ヲ攻メテ、赧王ヲ降セリ。政、立ツニ及ビ、李斯ノ策ヲ用ヒテ、諸侯ノ君臣ヲ離間セシメ、後、將ヲ派シテ、遂ニ六國ヲ滅シ、天下ヲ一統ス。

1、原因

周室大ニ衰へ、言論ノ自由トナリタルニ依ルモノナリ。

2、結果(學者、論客、諸子、百家、大ニ起ルニ至レリ。)

一、學問振起

1、出身
名ハ丘、字ハ仲尼。魯ニ生ル（我ガ紀元一〇〇年）天資穎敏、大ニ群童ト其ノ趣ヲ異ニス。

2、主義
聖人ニシテ儒學ノ祖ナリ。當時周ノ制度ハ、敗壞シテ、秩序、倫理大ニ紊レタルヲ以テ、其ノ時弊ヲ匡正セントナシ、仁義ヲ以テ、衆德ノ基トナシ、恕ヲ以テ、仁ヲ求ムルノ法トナシ、孝悌ヲ以テ、身ヲ修ムルノ實トナシ、詩書禮樂ヲ以テ、德ヲ養フノ具ニ供ス。

孔子ノ所説ノ斯クノ如クナルヲ以テ、當時利己主義ニノミ走レル諸侯ト其ノ意見ノ合

九、周末問

孔子

3、事業

致セザルハ、固ヨリ其ノ處ナリト云フベシ。故ニ、天下ニ周遊シテ、用ヒラル、コト能ハズ。故ニ、故國ニ歸リ、易ニ傳シ、書ヲ序テ、詩ヲ整ヘ、春秋ヲ編シ、之ヲ後世ニ傳フ。年七十三ニシテ歿ス。弟子三千人、身六藝ニ通ズルモノ七十余人。其ノ道ハ、支那政教ノ基礎トナリス。

い、弟子三千人、顔回ハ、最モ賢ナリキ。孔子ノ孫子思、中庸ヲ著ス。

孟軻ハ、孟子ヲ撰シ、人ノ性ハ善ナリトノ説ヲ唱フ。孔子ニ後ル、コト百四十余年、業ヲ子思ノ門ニ受ク。道通ズ

4、末流

は、

ルニ及ビ、諸侯ニ遊説セリ。覇業ヲ卑ミ、王道ヲ行フベシト説ク。諸侯王ノ求ムルトコロハ、富國強兵ノ策ナラザレバ、攻城野戦ノ俊才ナリ。故ニ時勢ニ迂遠ナルモノトシ、到ル所、志ヲ得ズ。孟子ヲ著ハシテ、仁義ヲ説ク。

に、

孔子ノ學派ヲ祖述シ、禮樂ニ通ジ、人ノ性ハ、惡ナリトノ説ヲ唱ヘ、孟子ノ性善説ニ反セリ。荀子ヲ著ハシテ、其ノ所説ヲ記述ス。其ノ弟子ニ李斯アリ、韓非アリ、共ニ著明ナリ。

い、四書…大學、中庸、論語、孟子。

ハ、老莊ノ學

1、老冉(老子)

魯ニ生ル。其ノ主義ハ、道德ヲ禮儀ノ外ニ求メント欲シ、無爲自然ヲ説キ、老子二篇ヲ著ス。

2、莊周(莊子)

…莊子ヲ祖述ス。

3、列禦寇

…大ニ莊子ノ説ヲ擴張セリ。

1、楊朱

…自愛説ヲ唱フ。

2、墨翟

…兼愛説ヲ唱フ。

3、孫武

…共ニ兵法ヲ講シ、孫子、吳子ヲ著ス。

4、吳起

…共ニ兵法ヲ講シ、孫子、吳子ヲ著ス。

5、高映

…共ニ法家ノ祖トナル。

6、韓非子

…共ニ法家ノ祖トナル。

ニ、諸子百家

5、聖典

ろ、五經

詩經、書經、易經、禮記、春秋。

7、公孫龍
8、鬼谷子

共ニ詭辯ヲ弄シ、專ラ權謀術數ヲ説ク

第三編 中古 (秦ノ天下ニ統後 遼ノ滅亡ニ至ル)

一、秦

1、稱號

王號ヲ改メテ、自カラ皇帝ト稱シ、諡號ヲ廢シ、徳ハ、三皇、五帝ヲ兼ネタリトノ意ヲ以テ、始皇帝ト號シ、二世以下萬代ニ傳ヘンコトヲ圖レリ。

イ、始皇帝ノ政治

李斯ヲ丞相ニ任ジ、其ノ獻策ニ依リテ封建ノ制ヲ廢シ、之ヲ郡縣トナシ、天下ヲ以テ、三十六郡ニ區別シ、郡ニ守尉、郡ニ尉監ヲ置キ、中央政府ニハ丞相、大尉、御史、太夫ヲ置ケリ。

一、始皇帝ノ事蹟

2、内治

地方ニ在ル所ノ多クノ富者ヲ咸陽ニ移シ、之ニ依リテ、禍亂ノ根元ヲ絶タントス。

民間ノ兵器ハ、多ク之ヲ沒收シテ、大宮殿ノ建設造營ニ充ツ。之ヲ阿房宮ト云フ。

文字ヲ改メテ、篆書ト隸書トヲ行ハシム。是ハ、交通大ニ廣マリテ、文字ノ必要ノ増加シタルニ因レリ。

匈奴ハ、從來屢々來リ寇ス。依リテ蒙恬ヲシテ、兵三十萬ニ將トシテ、之ヲ擊退セシメ、萬里ノ長城ヲ築キテ、之ガ侵入ヲ防グ。

1、匈奴

日、版圖

2、南越

南越ヲ征服シタル後ニ至リ、南海、桂林、及ビ象郡ヲ置ク。象郡ハ、今ノ安南ノ地方ナリ。

3、廣袤

東北ハ、陰山、遼東、朝鮮ニ及ビ、西南ハ、臨洮ヨリ交趾ニ至ル。

1、原因

秦ノ法令ハ、專シ苛酷ヲ主トシ、唯抑壓スルノミ。又人民ハ、土木ト外征トニ奔命ニ疲レ、新政ノ激變セルヲ悦バザルナリ。當時學者之ヲ誹謗シテ、秦ノ政府ヲ嘲ルモノ出ツ。

八、焚書坑儒

丞相李斯ノ建言ヲ用ヒ、醬藥、卜筮、種樹ノ書ハ、之ヲ除クト雖モ、其ノ他ノモノハ、

二、秦ノ滅

イ、原因

二世皇帝胡亥、暗愚ニシテ、宦官趙高ノ謀ヲ用ヒ、專ラ暴政ヲ行フ。

ロ、事實

1、...日夜淫樂ニ耽リテ、政事ヲ顧ミズ。

2、皇族、大臣ヲ殺シ、暴政ヲ行ヒ、嚴刑、重斂至ラザルハナク、國民怨嗟ノ聲、四方ニ滿ツ。

1、陳勝吳廣 兵ヲ擧ゲテ、秦ヲ討タントスルモ、事成ラズ。

2、項 羽... 兵ヲ江東ニ起シ、秦ヲ亡サントス。

3、劉 邦... 兵ヲ沛ニ起ス。

ハ、結果

4、滅

亡

二世皇帝ハ、其ノ臣、趙高ニ殺サレ、嬴子嬰ハ、二世ノ從子ノ故ヲ以テ立チテ、皇帝トナル。劉邦ノ軍、咸陽ニ迫リ、素車白馬、面縛シテ降ル。

春秋以來分裂シ來リタル支那ノ一朝ニシテ、秦始皇帝ニ征服セラレ、其ノ統一ニ歸スルヤ、其ノ二世間ニ行ヒタル暴政ハ、未ダ人心ヲ統治スルコト能ハズト雖モ、聊カ治ムルコトヲ得タリ。否、之ヲ抑壓シテ、頭ヲ擡ゲザラシメタリ。加之郡縣ノ制ハ、中央ニ權力ヲ集メタルヲ以テ、郡守、縣令ノ如キ、

国

二、漢

是等ノ地方官ハ、其ノ權力ヲ専ラニスルコト能ハズ。故ニ群雄ノ蜂起スルニ當リテヤ、制御ノ力ヲ有スルコトナシ。是秦ノ末世ニ於イテ、群雄ガ、容易ニ各所ニ起ルコトヲ得タルモノナリト云フベシ。

劉邦ハ、秦ノ苛政ヲ除キテ、法三章ヲ約シ、大ニ民心ヲ收攬シタリシカバ、軍ヲ牽キテ、先ヅ關門ニ入ル。

范增、項籍ニ説テ曰ク、沛公山東ニ在

1、鴻門ノ會

リタルトキ、好色貪財ヲ敢テス。今ヤ關中ニ入リテ、其ノ事ヲ慎ム。是レ其ノ志、小ニアラズ、急ニ討テ失フベカラズト。羽ノ學父、項伯、沛公ノ臣張良ト善シ、之ヲ良ニ告ゲテ共ニ去ラントス。良ハ、君ノ難ヲ見テ、救ハザルハ不義ナリトシ、伯ヲ要シテ沛公ニ見エシメ、卮酒ヲ奉ジテ壽ヲナシ、約シテ婚ヲ結ブ。曰ク、我レ關ニ入リテ、秋毫モ近クルコトロアラズ。關ヲ守ルハ、他ノ盜ニ備フルノミ。願ハクハ、伯具サニ臣ガ他意ナキヲ云ヘト。伯之

イ、原因

ヲ諾シ、項籍ニ告ゲテ曰ク、人、大功アリ、之ヲ討ツハ、不義ナリ。好ク之ヲ遇スベシト。籍之ヲ諾ス。沛公、旦日關門ニ來リ、關ヲ守リタルヲ謝ス、籍依リテ沛公ヲ留メ、共ニ飲ス。范增屢籍ニ目シ、沛公ヲ刺サシメントス。籍應ゼズ。項莊ヲシテ劍舞セシメ、以テ沛公ヲ擊タントス。項伯亦起テ舞ヒ、身ヲ以テ、沛公ヲ蔽フ。遂ニ其ノ意ヲ果サズ。張良ハ、事ノ急ナルヲ見テ、樊噲ヲ召ス。噲、楯ヲ擁シ、直ニ入りテ、眼ヲ瞋ラシ、羽ヲ見ル。羽之ヲ壯ナルトス。沛公則ニ行キ、竊ニ灞上ニ遁ル。

一、漢楚ノ争

ロ、結果

2、項羽ノ暴虐

咸陽ニ浸入シ、絳王子嬰ヲ殺シ、始皇帝ノ墳墓ヲ發キ、次デ宮殿ヲ燒ク。

3、項羽ノ背約

先ヅ歸東シ、陽ニ懷王ヲ尊ブ如クニシテ、之ヲ弑シ、自カラ西楚ノ霸王トナリ。彭城ニ都ス。彭城ハ今ノ江蘇省ニアリ。劉邦ニハ、巴蜀漢中ヲ與ヘ、漢王トシ、義弟ノ約ニ背ク。義弟ハ、先ヅ關中ニ入りタルモノヲ以テ、其ノ地ニ封ズベシト約シタルニ依リテナリ。

劉邦、義兵ヲ舉ゲテ、彭城ヲ陥レ、楚ハ次第ニ其ノ勢力ヲ失墜シ、遂ニ城下ニ圍マン、烏江ニ至リテ自殺ス。劉邦是ニ於テ、天下ヲ統一シ、漢ノ高祖トナル。

漢楚ノ争、數年ニ亘リ、項籍ハ、助少ナク、食
 乏シ。到底漢ニ敵シ難キヲ曉リ、天下ヲ二分セ
 シコトヲ約シ、兵ヲ能メテ歸ラントス。劉邦ハ、
 張良、陳平等ノ勸ヲ用ヒ、約ニ背キテ、項籍ヲ
 追ヒ、弊ニ乘ジテ、之ヲ垓下ニ圍ム。夜、漢軍
 ノ四面、楚歌ノ起ルヲ聞キ、大ニ驚キテ曰ク、
 漢終ニ楚ヲ得タルヤ、何ゾ楚人ノ多キト。起テ
 帳中ニ飲シ、虞美人ヲシテ舞ハシム。悲歌慷慨
 涙數行下ル。其ノ歌ニ曰ク、力拔山兮氣蓋世
 時不利兮睢不逝、睢不逝兮、可奈何。虞兮
 虞兮奈汝何如。虞ハ、籍ノ乘馬ナリ。左右皆
 泣キ、敢テ仰ギ見ル者ナシ。籍、八百余騎ヲ從

註

ヘ、圍ヲ脱シ、道ヲ迷フテ、大澤中ニ陥リ、何
 ホ追撃セラレテ、東城ニ至ル。僅ニ二十八騎ヲ
 餘メノミ。籍、騎ニ謂テ曰ク、余兵ヲ起シテヨ
 リ八歳、七十有余戰、未ダ曾テ敗ヲ取リタルコ
 トアラズ。今日此ニ及ブハ、戰ノ罪ニアラズ、
 天我レヲ滅スモノナリ。今ヤ、既ニ死ヲ決シタ
 リ。願ハクハ諸君ノタメニ決戰シ、諸君ヲシテ
 之ヲ知ラシメント。皆其ノ言ノ如シ。是ニ於テ
 カ、烏江ニ至リ、自刎シテ死ス。

イ、善政

- 1、都ヲ長安ニ定ム。
- 2、蕭何、陳平、張良ノ三傑ヲ用ヒテ、國運ノ發達ヲ圖ル。
- 3、封建、郡制ノ兩制ヲ併用ス。
- 4、叔孫通ノ議ヲ用ヒテ朝儀ヲ起ス。

口、失政

1、功臣ニシテ終ヲ全ウセルモノ少ナシ。

功臣、同姓ノ封地ヲ定メ、韓信ヲ楚王ニ、彭越ヲ梁王ニ、英布ヲ淮南王トナシ、其ノ他、異姓ニシテ王タルモノ三、四アリ、自餘ノ功臣ハ、多クハ侯ニ封ゼラル。是レ皆漢家創業ノ功臣ナルヲ以テ、蓋シ止ムコトヲ得ザルベシ。是等ハ皆、王ノ藩屏タラシメントナシタルモノナレドモ、諸王ノ權力ハ、重キニ過ギ、却ツテ危害ヲ醸スニ至ル。

3、朝廷ノ租税ハ、僅ニ全領土ノ三分ノ一ニ過ギズシテ、其ノ他ハ、諸王ノ收入ニ歸ス。

匈奴ハ、當時勢力強大ナリ。一旦奉ノ威

二、高祖ノ事業

ハ、外國トノ關係

1、匈奴

勢ニ怖レテ、北方ニ退キタリシガ、高祖ノトキ、南侵シテ、普陽ニ至ル。高祖親カラ行キ、白登城ニ於テ、却テ匈奴ニ圍マレ、陳平ノ謀ニ由リテ、僅ニ脱スルコトヲ得タリ。爾後審來寇スルヲ以テ、劉敬ノ謀ヲ以テ、婚姻ヲ通シ綰帛ヲ贈リテ、和親ヲ結ビヌ。

2、南越

南越王趙佗ノ自立ヲ辨シテ、更ニ之ヲ冊封シ、以テ南選ノ患ヲ防ギヌ。高祖ノ死後、惠帝立ツ。官后呂武ノ子ナリ。呂后方略アリ。高祖ヲ助ケテ、天下ヲ統一セシメ、高祖ト雖モ、頗ル憚ルト。

二、呂武ノ亂

1、原因

コロアリ。惠帝多病ニシテ、政治ヲ見ザルニ及ンデ代リテ天下ノ大權ヲ握リ、惠帝ノ死後、宮人ノ子ヲ立テテ、自カラ政ヲ執リ、呂武ノ諸族ヲ王トナサントス。要スルニ呂武ノ勢力ヲ張大セントスルニ出ヅ。

2、經過

兄ノ子呂台ヲ呂王トシ、呂祿ヲ趙王トナス。呂台ノ死スルヤ、呂屋ヲ以テ、呂王トナス。高祖ノ死後、未ダ久シカラズシテ、漢家ハ、婦人ノタメニ、將ニ覆滅セントス。劉武ノ諸族ハ、豈ニ不平ナカラシヤ。呂后ノ死後、齋王慮外ニ舉ゲ、

3、結果

劉帝内ニ之ヲ應ジ、陳平、周勃相謀リテ、呂武ノ兵權ヲ奪ヒ、誅ニ復シ、王室ノ患即チ止ム。此ノ亂ノ平定ニ於テ、周勃ノ力、最モ強カリシナリ。

文帝即位シ、勤儉、寛刑、減稅ヲ行ヒテ、天下大ニ治マル。

一、原因

景帝ノトキ、同族ノ諸王ハ、次第ニ朝命ヲ奉ゼズ。故ニチャウ鼂ウツ相ノ策ヲ用ヒテ、其ノ封地ヲ削リ、以テ其ノ勢力ヲ殺ガントス。

二、結果

吳王ハ、他ノ王ト共ニ反亂ヲ企テタリトイヘドモ、周亞夫之ヲ鎮定ス。

三、吳楚七國ノ亂

モト地方ニアリテ、民間ノ事情ニ通ズ。即位ニ及ンデ、專ラ仁

四、文帝ノ治績

儉ヲ旨トナシ、肉刑ヲ除キ、三族ノ刑ヲ除キ、屢田租ヲ免ジ、貢
獻ヲ止メ、振窮養老ノ禮ヲ定メ、宮苑、事服ノ如キモ、之ヲ増
サズ。海内其ノ治ニ浴シ、秦漢以後、第一ノ治績ト稱ス。

イ、文學獎

1、由來

秦ノ焚書坑儒以來、學術興ラザリシガ、
高祖ノ世ニ至リ、博士叙孫通ヲ用ヒ、文
帝、崇帝ニ至リ、漸ク盛ニ赴キシカド、
其ノトキノ學術ハ、頗ル雜駁ニシテ、黃
起、青、申、韓ノ學、勢力ヲ有シヌ。武
帝ノ位ニ即クニ及ンデ、大ニ施設スルニ
至ル。
大學ヲ設テ、博士ヲ置キ、儒教ヲ以テ、
政府ノ標準トナス。是レヨリ支那歷代ノ

2、事實

學政ハ、必ズ儒道ヲ以テ、崇トナスニ至
レリ。帝亦文詞ヲ好ミ、頻リニ文學ヲ獎
勵シ、文人詞客ハ、漸ク朝ニ集マリ、司
馬遷、司馬相如、東ニハ朔、枚臯、善仲
舒ノ諸士相現ハレヌ。又諸王ニハ、淮南
王安アリテ、學ヲ好ミ、河間王德モ亦篤
學ニシテ、文學ノ盛ナル後世ノ美稱スル
所ナリ。

口、年號ノ始メテ年號ヲ建テ、建元ト云フ。是レ東洋ニ於ケ
ル年號ノ始ナリ。

漢ノ高祖匈奴ヲ親征シ、却テ白頭城ニ圍
マレタルヨリ其ノ後ハ、厚ク匈奴ニ賂ヒ

五、武帝ノ功業

東洋史

1、概観

テ、専ラ和親ヲ結ビタリケルガ、以後匈奴ノ入寇ノ止マザルヲ以テ、武帝之ヲ除カント欲シ、在位五十余年間ニ匈奴、南猷、朝鮮ヲ征服シ、以テ廣大ナル版圖ヲナセリ。

2、南越

秦ノ末ニ獨立シタル國ナリ。高祖親ンテ自立セシメタリシガ、武帝之ヲ征服シテ、郡縣トナセリ。

い、由來

殷ノ王族箕子ハ、其ノ亡國ノ後、遼東ニ赴キテ、王トナリ、王侯(現今ノ平壤)ニ都ス。當時ノ朝鮮ハ、遼河、大同江間ニ於ケル

3、朝鮮

地ニシテ、箕子ノ子孫ハ、世々王トナルニ至レルナリ。箕子ノ裔タル燕、衛滿箕準ヲ追ヒ、自立朝鮮王トナル。

は、結果

武帝ノトキ、衛滿ノ孫衛右渠、屢々漢ノ命ニ抗シテ、之ヲ奉ゼズ。武帝ハ、之ヲ滅シテ以テ郡トナス。

當時朝鮮ニ於テハ、其ノ南ノ方ハ、三韓ト號シ、漢、三韓ノ交通ヨリシテ、我國ト漢トノ交通モ亦開クルニ至レルナリ。

3、外國征服

中

古

4、匈奴

い、匈奴ノ勢カ

A、秦ノトキ、塞外ニ追ハレタリシガ、漢ノ初ニ至リ、昌頤單子トナリ、東ハ、東胡ヲ從ハ、西ハ、月氏ヲ追ヒ、勢甚ダ振ヒ、屢々漢ノ邊境ニ寇スルニ至ル。

B、河南ノ地ヲ略取シ、霍去病ハ、西邊ヲ討テ、河西ノ地ヲ取リシヲ以テ、單子ヲ漢北ニ追ヒ、之ヲ征服ス。

ろ、征服
霍去病ハ、大軍ヲ率キテ、匈奴ヲ征服ス。

イ、原因

屢々兵ヲ塞外ニ用ヒシカバ、國帑給セズ、殆ト疲弊ノ極ニ達ス。依リテ之ガ財源ヲ求メンガタメ、新法ヲ制定ス。

5、西域ト交通

イ、大月武

月氏ハ匈奴ヲ避ケテ、中央亞細亞ニ建國シタルモノナリ。武帝ハ、使ヲ遣ハシ以テ、匈奴ヲ夾撃センコトヲ謀リタルモ成ラザリキ。

ロ、烏孫國

大月武國ノ隣國ナリ。武帝ハ、匈奴ヲ征服スル便宜ヲ圖ランガタメニ、之ト婚ヲ通ジ、以テ相謀リテ、匈奴ヲ夾撃セリ。匈奴衰フ。

六、武帝新法

四、結果

- 1、人民ヲシテ、金錢ヲ以テ、官爵ヲ購ヒ、又死罪ヲ償フコトヲモ得セシム。
- 2、民間ニテ鐵器ヲ鑄造シ、鹽ヲ煮、酒ヲ釀造スルヲ禁ジ、之ヲ官業トナス。
- 3、舟車ニ課税ス。
- 4、均輸ノ法ヲ設ケ、遠國ノ地ニ多ク適スル所ノ物ヲ以テ、賦トナサシメ、官之ヲ乏シキ地ニ賣リ、平準官ヲ宗師ニ置キ、物價ノ低キトキハ、之ヲ買ヒ、高キトキハ、之ヲ賣リ、以テ商賣ノ利ヲ奪ヒヌ。
- 5、白鹿ノ皮ヲ用ヒテ、皮幣ヲ造リ、四十萬錢ニ値セシム。

一、昭帝宣治ノ績

- 1、昭帝ルヲ以テ、霍定ハ、攝政シ、ヨク民力ヲ休養シ、以テ專ラ治國平天下ノ策ヲ講ズ。
- 2、久シク民間ニアリタルヲ以テ、ヨク更治ノ得失ニ通ゼリ。故ニ官吏ノ任免ヲ慎ミ、郡ノ太守ニ治績アルトキハ、即チ璽書ヲ賜ヒ、秩ヲ増シ、以テ之ヲ獎勵
- 3、然レドモ賦斂ノ頗ル重キヲ以テ、百姓大ニ疲弊シ、所在ニ盜賊起ルアリテ、鎮壓スベカラズ。
- 4、是ニ於テカ、帝其ノ非ヲ悔ヒ、天下ニ謝シ、國稅ヲ輕減スルニ至ル。
- 5、昭帝ハ、武帝ニ次デ立チタルモ、幼冲ナ

一、治績

七、中世ノ事績

2、宣帝

セリ、宰相ニ魏相、丙吉、黃霸、于足國アリ。太守ニハ趙廣漢、朱邑、龔遂等ノ輩アリテ、専ラ諸國ニ策ス。人民其ノ堵ニ安ンズ。

ろ、外征

趙充國ヲ遣ハシテ、先零以下諸差ノ漢ニ背クモノヲ征セシメ、又、常惠、馮奉世、鄭吉、陳湯等ヲ任用シテ、威ヲ西域ニ張リ、匈奴モ内附スルニ至ル。

1、原因

宣帝ハ、烏孫國ト同盟シ、大ニ匈奴ヲ破リ殆ト之ヲ略取セントスルニ至レルナリ。

口、匈奴衰微

2、結果

い、匈奴ハ、全然相衰へ、次テ内亂ノ起ルアリテ、郅至單于ト呼韓邪單于ノ二部ニ相分ル。

呼韓邪單于ハ、漢ニ來リ降リ、宮女王昭君ヲ娶リテ、婚ヲ結ビタリシガ、郅至單于ハ、漢ト戰ヒテ大敗ス。

は、匈奴ノ衰微ニヨリテ、西域三十余國ハ、全ク漢ニ歸スルニ至リ、漢ハ、鄭吉ヲ西域都督トシ、烏壘城ニアリテ統轄セシム。

1、原因

上ニ名君ナクシテ、下ニハ、宦官等、其ノ權ヲ弄シ、政ヲ專ラニス。

八、漢ノ衰運

2、事實
元帝ノトキ、宦官弘恭石顯出デ、成帝ノトキ、外威王鳳アリテ、何レモ權ヲ擅ニス。

イ、人物

成帝ハ、元帝ノ後ヲ承ケテ、位ニ即キ、王鳳ヲ舉ゲテ政ヲ輔ケシム。王鳳ニ次デ、從弟王音、王商、王根等相次ギテ、朝政ヲ統ベ、王武ノ勢、日ヲ追フテ盛ナリ。王莽ニ至リテ、其ノ女ヲ納レテ、皇后トナシ、其ノ政ヲ行フヤ、一ニ周制ニ倣ヒ、以テ民心ニ投ズ。天下ノ學者ハ、皆王莽ヲ以テ、周公ニ比シ、士民上書シテ、其ノ德ヲ頌スルモノ四十余萬人。遂ニ莽ニ賜フニ、九錫ヲ以テス。莽、毒ヲ進メテ平帝ヲ弒シ、宣帝ノ其孫(二歳)ヲ迎ヘテ、孺子トナシ、

八、王莽ノ篡奪

ハ、計畫

自カラ攝政ノ位ニ居リ、後、眞皇帝ノ位ニ即キ、國號ヲ新ト改ム。(我が紀元六六八年)。
自己ノ宗族ニ爵ヲ與ヘ、漢ノ王族ノ爵位ヲ奪ヒ、天下ノ田ヲ以テ、王田トナシ、奴婢ヲ私屬シテ以テ賣買ヲ禁ジ、官名ノ變更ヲナシ、州郡ノ改正ヲナシ、錢貨ヲ改鑄シテ、周ノ古制ニ倣ヒ、之ニヨリテ以テ人心ヲ收メントナセリ。

既ニ漢室ヲ奪ヒ、諸般ノ制度、一ニ周禮ヲ祖述セリ。然レドモ其ノ制令變更シテ、州郡ハ、其ノ煩ニ堪ヘズ。賦斂亦過重ナリシカバ、人心忽チ離畔シテ、天下亦漢室ヲ思ハザルモノナカリキ。是ニ於テ、諸方ノ豪傑、競ヒ起リテ、王莽ニ反ス。先ヅ赤眉ノ兵ガ、

三、結果

莒ニ起リ、綠林、兵林ノ兵ハ、荊洲ニ起ル。漢ノ宗室、劉縮、劉秀ノ兄弟ハ、兵ヲ春陵ニ起シ、新市、平林ノ兵ヲ合セ、劉玄ヲ立テ、皇帝ノ位ニ即カシメ、王莽ノ時、王尋、王邑ヲ昆陽ニ破ル。是ニ於イテ、四方ノ群雄、響ノ如ク應ジ、遂ニ長安ニ入リテ、王莽ヲ斬ル。莽、帝位ヲ稱スルコト十五年、遂ニ亡ブ。

イ、起

因ノ軍ヲ昆陽ニ破リ、洛陽ニ於テ、帝位ニ即キ、終ニ天下ヲ一統セリ。

王莽、諸方ニ叛氣ノ起レルヲ聞キ、王邑、王尋ニ兵ヲ授ケ、又虎豹犀象ノ屬ヲ驅リ

註

昆陽ノ戰

テ、兵勢ヲ助ク。總軍百余萬、旌旗千里ニ連ル。漢ノ諸將ハ、其ノ勢ヲ見テ、色動ク。劉秀ハ將ヲ勵マシ、敢死ノモノ三千人ト共ニ直ニ其ノ中堅ヲ衝ク。次テ尋ヲ殺シ、城中又鼓噪シ中外勢ヲ合セ、聲呼王地ヲ震動ス。莽ノ兵、大敗シ、死者萬ヲ以テ數フ。是ニ於テ四方ノ豪傑、競ヒ起リ、漢ニ應ズルモノ多ク、隗囂ハ、隴西ニ起リ、公孫述ハ、四國ニ起ルニ至レリ。

王莽亡ビタリト雖モ、河北ノ地ハ、未ダ平ガス。銅馬ノ諸賊ハ、河濟ノ間ニ横行

九、光武帝ノ事蹟

東洋史

1、天下ニ統一

シ、其ノ北ニハ、王郎ナルト者、成帝ノ子、劉子異ト云ヒ、兵ヲ擧ゲテ、過冀ノ地ヲ略シ、勢頗ル盛ナリ。是ニ於テ、帝劉玄ハ、劉秀ヲ遣ハシテ、河北ノ地ヲ徇ヘタルニ、劉秀先ヅ王郎ヲ斬リ、次デ銅馬ノ諸賊ヲ破リ、河北ノ地ヲ定ム。是ニ於イテ、劉秀ノ威名甚ダ盛ナリ。劉玄、秀ヲ蕭王トナシ、以テ歸ラントス。秀先キニ兄劉縯ヲ忌ミテ、之ヲ殺シタルヲ怨ミ、且ツ歸ラバ禍ヲ受ケンコトヲ知リ、河北ノ未ダ平ガザルヲ口實トナシテ、歸ラバ部下ノ諸將ノ勸ニ從ヒテ、竊ニ自立

2、功臣待遇

ノ計ヲナセリ。當時赤眉ノ賊、尙ホ山東ニ勢ヲ逞ウス。劉秀、北征ノ隙ニ乘シ、關中ヲ取ラント欲シ、劉盆子ヲ奉ジテ、西ノ方、長安ヲ攻メ、遂ニ劉玄ヲ降シ、諸將ノ勸ニ從ヒテ、帝位ニ即キ、終ニ洛陽ニ都ス。我ガ紀元六八五年。光武帝ノ天下ヲ一統スルヤ、諸政ヲ改メテ、漢ノ舊ニ復シ、且ツ前漢ノ高祖ト、大ニ其ノ趣ヲ異ニセリ。即チ功臣ニ對シテハ、其ノ終ヲ全ウセシメント欲シ、兵事ト吏事トヲ任セズ。皆列侯ヲ以テ、第一ニ就カシメタリシカバ、功臣ヲ韓信、彭

古

中

口、偉業

3、學術獎勵

越ノ禍ヲ受クルコトナク、皆功名ヲ全ウスルコトヲ得タリ。

西漢ノ末、王武ノ政權ヲ弄セル弊ヲ知レルヲ以テ、萬機ヲ親ラシ、大ニ意ヲ内治ニ用フ。即位ノ初メ、大學ヲ起シ、禮樂ヲ修メ、又天下ノ人士、王武ニ媚事シタルヲ以テ、諂諛、風ヲナシタルナレバ、之ヲ矯正セント欲シ、鬪士周賈、嚴光等ヲ殊遇シ、高節ノ士ヲ重ンジタリ。故ヲ以テ、其ノ結果ハ、後世ニ現ハル。東漢ノ世ハ學術盛ニシテ節義ノ士少ナカラズ。

4、内治外交

い、内治

A、外戚ノ權ヲ收メ、政治ヲ親ラス。

B、大學ヲ起シ、禮樂ヲ修メ、專ラ名節ヲ重ンズ。

C、子孫ヨリ遺業ヲ紹グ。

D、此ノトキ佛教傳來ス。

柔ノ道ヲ以テ、天下ヲ治メントナシタルモノノ如シ。其ノ北匈奴ヲ攻メント謂フモノアルニ當リ、柔ヨリ剛ニ勝チ、弱ヨリ強ヲ制スル所以ヲ告グ、嘗テ西域ノ入附ヲ求メタルニ、遂ニ事ノ

イ、起因

印度ハ、宇内ノ舊國ニシテ、アム、シル兩河ノ間ハ實ニ阿利安人種ノ故郷ナリ。次第ニ南下シテ、幾多ノ部落ニ分レ、印度河ヲ渡リテ、居ヲパンジアブニ定メタリ。是レ實ニ今ヨリ四千年前ニアリ。其ノ後、漸ク東進シテ、ガンジス河ノ流域ニ幾多ノ小國ヲ建設シタリ。實ニ紀元一千年ノ頃ニアリ。

起ランコトヲ慮リテ、之ヲ謝絶セルコトアリ。斯クノ如ク常ニ外國トノ關係ヲ避ケントセリ。

阿利安種ガ、ガンジス河ノ流域ニ於テ、幾多ノ小王國ノ建設シタル頃、國民中ニ四種族アリ。此ノトキ、印度ハ、社會ノ狀態ヲ改メテ、

註

四種性ノ區別ヲ生ズルニ至ル。即チ婆羅門ブラーロン(僧族)、刹帝利クシアト(王族)、吠舍ヴァイシヤ(平民)、陀首スーダラ(奴隸)是ナリ。首陀ノ非阿利安人種ヲ除キテハ、皆阿利安人種ニ屬ス。是等ハ。各其ノ家格ヲ世襲シテ、交辯スルコトヲ得ス。其ノ職掌トスルトコロノモノハ、婆羅門ノ祭祀ノ事ヲ司リ、刹帝利ハ、武事ヲ司リ、吠舍ハ、實業ニ從事シ、首陀ハ、奴隸トシテ賤役ニ就ク。

1、法典
阿利安人種ノ尊崇セルトコロノ造化神ノ梵天ニ附會シテ、自己ノ種姓ヲ神聖ニナサント欲シ、マス出デ、諸國ノ舊慣ヲ參酌シ、以テ法典ヲ規定ス。頗ル苛酷ヲ極

一〇、佛ノ起
因ノ果ト

マ、法典ト
其ノ影
響

2、影
響

メ、百餘ノ種姓ヲ屬ス。
刹帝利種ノ者、先ヅ起リテ、之ニ抵抗
シ、婆羅門種姓中ニモ、自己種姓ノ腐
敗ヲ攻撃スルモノアルニ至レリ。是ニ於
テ、親迦牟尼ハ、刹帝利種性ヨリ蹶起シ
テ、佛教ヲ興シ、一切宿生ノ濟度ヲ圖レ
リ。

ハ、婆羅門
教

此ノ教ハ、萬有神教ニシテ、其ノ要旨ハ、靈魂ノ移
轉ニシテ、吾人ガ、此ノ世界ニ形ヲ現ハス過去ノ罪
業ノタメナルヲ以テ、此ノ世界ハ、責罰ノ時ナリ。
以ニ、唯、禮拜、供養、懺悔、清淨シテ、罪ノ輕減
ヲ計ルベシ、然ルトキハ、靈魂娑婆ヲ去リテ後ハ、

二、釋
迦

宇宙ナル神ニ歸スベシ。若シ然ラザレバ、下等動物
ノ肉體ト結合シテ、再ビ娑婆ニ苦痛ヲ受クベシト云
フニアリ。
釋迦牟尼ハ、名ヲ喬答摩悉達ト云フ。迦比羅城王ノ
子ナリ。我が紀元百四年ノ頃ニ生ル。夙ニ人生ガ、
四苦(生、産、病、死)ヲ脱スルコト能ハザルヲ見、
其ノ無常ヲ感ジテ、歴世ノ念アリシガ、遂ニ山林ニ
入り、修行ノ後、新ニ一宗教ヲ開キ、婆羅門教ニ反
對シ、種姓ノ區別ヲ廢シ、其ノ種姓ノ何タルヲ問ハ
ズ、邪念ヲ絶ツトキハ、未來ニ於テ、苦界ヲ解脱シ
テ幸福ヲ受クルモノナリト立證セリ。

本結果

1 新宗教ハ、大ニ歡迎セラレ、摩揭陀國王阿育王
 其ノ擴張ニ努メシカバ、西シリアヨリ東、緬甸
 2 二、北ハ、中央亞細亞ヨリ南ハ、錫蘭島ニ及ブ。
 中央亞細亞ノ迦膩逸迦王ハ、大ニ佛教ノ擴張ニ
 勉メ、終ニ天山南路ニ擴張ス。
 3 東漢ノ明帝ハ、大月武ヨリ、佛經及ビ僧侶ヲ連
 レ歸リ、得馬寺ヲ洛陽ニ建テ、漸次隆盛ニ赴ク
 ニ至レリ。
 當時印度ハ、亞歷山王ノ侵入ニ依リ、國內之ガ
 タメニ騷擾シタリシガ、此ノ時ニ乘ジ、チャン
 ドラプタナルモノ出デ、マダカ國ニ毛利耶朝ヲ
 建テ、ギリシアノ殘兵ヲ追ヒ、兵ヲセリラクス

註 佛教ト毛利耶朝ノ關係

ト相交ヘタリシガ、後、互ニ婚ヲ通ジテ、和ヲ
 結ビ、其ノ孫ニ阿輸迦ナルモノアリ。佛教ヲ以
 テ國教ト定メ、之ガ傳播ヲ計ルニ至レリ。抑モ
 毛利耶家ハ、首陀種姓ヨリ出タルヲ以テ、殊
 ニ佛教ガ、保護獎勵シタルモノナリ。其ノ一斑
 ヲ略記スルトキハ、先ヅ第三圖ノ結集ヲパータ
 クプトラニ行ヒ、佛教ノ主義ヲ確定シ、法會ヲ
 以テ、其ノ主義ヲ國民ニ告ゲ、又佛徒ヲ四方ニ
 派出シテ、專ラ之ガ弘布ヲ圖リヌ。是ニ於テカ、
 西ハ、大夏ヨリ南ハ、錫蘭ニ達シ、ミナ其ノ感
 化ヲ受ケ、且ツ佛教徒ハ、遠ク埃及、シリアニ
 弘布ヲ圖リタリ。佛教ハ、漸ク初メテ世界ニ光
 被セルノ基礎ヲナセリ。

1、カニシカ王代ノ佛教

大月氏ハ、佛教ヲ尊奉シタリシガカニシカ王君臨スルニ、最モ深ク佛教ヲ奉シ、之ニ歸依シ、佛經ノ結果ヲ開ク。此ノトキニ當リテ、印度ノ中土ニハ、婆羅門教ハ、勢力ヲ振ヒタリシヲ以テ、佛教徒ハ、皆大月氏ニ來集シ、北印度ハ、終ニ佛教ノ中心トナレリ。是ヨリ先キ、佛教ハ、獅子國ニ根據ヲ固クナシ、是等南方印度ノ佛教第四國ノ結果ニ加ハラザリシヲ以テ、南方佛教ト、北方佛教ト、兩部ニ分レタリ。南方佛教ハ、獅子國ノ中心トシ、後印度、南洋、島ニ弘布シ、

2、佛敎東會ノ機

北部ハ、北印度ヲ中心トシテ、大月氏ノ領土ニ流行セリ。大月氏ノ領土ハ、西北兩印度ヨリ中央亞細亞、干寫、疏動等、葱嶺以東ノ諸國ナリシヲ以テ、天山南路支那ノ地ハ、未ダ幾バクナラズシテ、佛教ノ流布ヲ見ルニ至レリ。支那ハ、漢ノ初、既ニ佛教ヲ密傳セルガ、東漢ノ明帝、出デ、銳意四境ヲ擴メシヨリ、西域トノ關係モ、頻繁ニ赴キ、佛法ハ、次第ニ支那地方ニ東衝スル機曾ヲ得タリ。且蔡愔ハ、明帝ノ命ヲ奉ジテ、大月氏ニ至リ、佛經、佛像及

註

古

1、南北匈奴

王ノ莽亂ヲナスニ當リテ、匈奴ハ、大ニ北邊ヲ騷ガシタリ。當時匈奴ハ、南北ノ二部ニ相分レ、南匈奴ハ、東漢ニ懾服シ、北匈奴ハ、常ニ四隣ヲ攻略シ、西域諸國ヲ從ヘ、其ノ勢力甚ダ強大ニシテ、屢々入寇シ、漢ハ、屢々之ヲ征ス。

1、爲人

幼ニシテ大志アリ。曾テ儒者タリケルガ、慨然筆ヲ役シテ曰ク、大丈夫ハ、當サニ功ヲ異域ニ立テ、封候タルベシト。竇固北征ノトキニ假司馬トナリ、屢々功アリ。故ニ材能ノ士トナシ、西域ニ使ス。

ビ僧侶ヲ得テ、歸來シ、是レヨリ漸ク佛教ノ隆盛ヲ見ニ至ル。

二、匈奴西域
鮮卑

2、斑趙
外征ノ

2、事實

當將西域ハ、半バ匈奴ニ服從シ、半バ漢ニ屬シタリシガ、先ヅ鄯善ニ至リテ、匈奴ノ使ヲ斬リ、鄯善王ヲシテ、王奴ト交ヲ絶タシメ、一旦歸リテ、其ノ由ヲ奏シ、次デ又西域ニ至ル。時ニ干寫勤莎事ヲ破リテ、匈奴ニ服屬シタリシガ、超ハ、干寫ニ王リ、王ヲ降シ、疏勒ニ至リシガ、時ニ疏王ハ、龜茲王ニ破ラレ、龜茲ノ人、兜題王トナレリ。超ハ、兜題ヲ廢シテ、故王ノ姪ヲ立テ、王トナセリ。是レヨリ西域ノ諸國、復タ漢ニ通ズルニ至レリ。然ルニ龜茲尙ホ未ダ全ク服スルニ至ラズ

時ニ明帝死シ、漢又意ヲ西域ニ立テ、班超ヲ召還ス。超上書シテ、西域ヲ鎮定セント請ヒ、兵ヲ以テ、龜茲ヲ降シ、焉耆ヲ破リ、烏孫ヲ召致シ、大月氏ヲ破ル。

3、結果 漢威ノ勢ハ、大ニ揚リ、西域五十余國ハ、皆漢ニ内屬ス。和帝趙ヲ封ジテ、定遠侯トナス。西域ニアルコト、二十四年。

ハ、匈奴滅亡 北匈奴ハ、勢力漸次相衰ヘ、到底之ヲ維持スベカラザルヲ以テ、終ニ衰海地方ニ遁去ス。

ニ、朝卑 東ヨリ起リテ、匈奴ノ地ヲ占領シ、其ノ勢力、次第ニ強大ナリ。

一三、大秦ハルシ
(羅馬)

イ、申來 支那製ノ縮ヲバ、非常ニ珍重シ、之ヲ望ミタルニ依ル。

ロ、經過 安息國西息間ニアリテ、其ノ交通ヲ妨害ス。

ハ、結果 太秦ハ、安敦、安息ヲ破リ、海路、東漢ニ通ジ、次第ニ貿易ノ盛ナルニ至レリ。紀元八二六年ナリ。

1、由來 光武、明帝、宰帝ノトキハ、東漢ノ初世ニシテ、威力遠ク外蕃ニ及ビタリト雖モ、和帝ノ位ニ即クニ及ビ、漸ク衰運ノ萌生ヲ發セリ。東漢ノ諸帝ハ、概シテ短命ナルガ如シ。短命ナルノ故ヲ以テ、嗣帝ハ常幼主ニマシマシ、幼主ナルヲ以テ、母后、朝ニ臨ミ、從テ外威ノ權甚ダ盛ニシテ專横也。

イ、外威ノ專横

三、外戚官、黨人ノ專横

口、黨人ト
横、宦官專

2、結果

桓帝ノトキニ至リテ、外戚ノ權ハ、宦官ノ手ニ移リ、宦官ハ、權ヲ擅ニスルニ至レリ。

1、黨人ノ跋扈

宦官ノ專横ノ甚ダシキヲ以テ、當時ノ學者、處士大ニ其ノ非ヲ鳴ラシ、之ヲ攻撃ス。宦官大ニ怒リ、學者等二百余人ヲ以テ、其ノ黨人トナシ、之ヲ禁錮シタリ。朝政ハ、日ニ非ナルヲ以テ、黃巾ノ賊起リ、遂ニ群雄割據トナシ。袁紹、兵力ヲ以テ、悉ク宦官ヲ誅ス。董卓又宦官ノ誅伐ヲ以テ、起レリシガ、後、臣下ニ殺サレ。

2、宦官滅亡

1、外戚、宦官ノ禍

和帝甫メテ十歳ニシテ立ツ。外戚竇氏ノ騷擾ナルヲ以テ、帝ハ、宦官鄭象ハ相謀リテ、其ノ黨與ヲ斥ケ。宦官ノ權ハ、是レヨリ重シ。宦官孫程ハ、閭民ヲ斥ケテ、順帝ヲ擁立シタリシガ、外戚梁氏、又專横ヲ極メ、一族朝廷ニ充滿シタリ。桓帝ハ、是ニ於テ、宦官單超等ノ徒ハ相謀リ、悉ク梁氏ヲ誅幾シ、ヲ除キヌ。是ニ於テカ、宦官ハ、遂ニ威勢ヲ收メテ、朝廷ニ跋扈シタリ。
靈帝ノトキ、鉅鹿ニ張角ナルモノアリ、妖術ニ依リテ、徒二十萬ヲ集メテ亂ヲナ

2、黄巾ノ亂

サントナシ、窃ニ其ノ時機ノ至ルヲ待テリ。然ルニ、宦官ハ、内ニ跋扈シ、名士ハ、外ニ廢錮シテ、人心漸ク漢室ヲ去リタリシカバ、張角先ヅ山東ニ起リ、其ノ徒皆黄巾ヲ着ク。旬月ノ間ニシテ、天下響應ス。朝廷室甫嵩ヲシテ、之ヲ伐タシム、張角病デ歿シ、其ノ弟張梁、張寶相次デ、其ノ衆ヲ領ス。嵩王ヲ破リテ、之ヲ殺ス。然レドモ甚ノ餘衆各地ニ群起シ、十年ノ間、平定スルニ至ラズ。朝廷重臣ヲシテ救トシテ、地方反亂ヲ鎮メシム。



3、董卓ノ亂、事實

い、原因

隴西ノ董卓、献帝ヲ擁立シ、后太后ヲ弑シ、自カラ相國トナリテ、諸政ヲ專ラニナシ、以テ暴威ヲ振ヘリ。袁紹、袁術、曹操、孫堅等兵ヲ起シテ、卓ヲ伐テリ。卓遂ニ其ノ鋒ヲ避ケテ、都ヲ長安ニ遷セリ。既ニシテ山東ノ諸省互ニ相一致セズシテ、各自兵ヲ率キテ歸ルニ至ル、卓、益々暴威ヲ振フニ至リシガ司徒王允、卓ノ臣、呂布ト相謀リテ卓ヲ殺セ

3、結果
 是レヨリ後ハ、國中大ニ亂ル、
 布ヲ追フニ至ル。
 リ、卓ノ餘黨亦王允ヲ殺シ、呂

孟德沛國ノ人ニシテ、文嵩ハ、宦官曹騰ノ養子ナ
 リ。曹ハ、天資機警ニシテ術策アリ。或ル人之ヲ評
 シテ曰ク、曹操ハ、治世ノ能臣、亂世ノ姦雄ナリ
 ト。其ノヲ名著ハシタルハ、黃巾ノ賊ヲ討チタルト
 キニアリ。

- 一四、郡割據
- イ、曹操
 - ロ、袁紹…河南北方ヲ領ス。
 - ハ、公孫度…遼東ヲ得。
 - ニ、劉備呂布…徐州ニアリ。

ホ、孫策…江東ヲ攻奪ス。
 ヘ、劉表…湖北地方ヲ占領ス。
 ト、袁術…安徽地方ニ據ル。
 チ、以上ノ各將ハ、常ニ競争スルコト常ナシ。

イ、原因
 劉表ハ、初メ曹操ト相合シタリシト雖モ、其ノ志ノ
 不臣ナルヲ以テ、之ヲ去リ、以テ劉表ニ頼レリ。劉
 表死シ、劉備ハ、曹操ノ軍ヲ避ケ、名臣諸葛亮ヲ得
 テ、其ノ謀ニ依リテ、遂ニ江南ナル孫權ト相結ブニ
 至ル。

曹操既ニ、劉琮ヲ降シ、劉備ヲ追ヒ、江流ニ從ヒテ、
 東ニ降ラントス。諸葛亮、吳ニ至リテ、操ヲ拒ムベ
 キコトヲ説ク。會、操ハ、書ヲ贈リテ曰ク、今明軍

一五、赤壁ノ戰

口、事實

八十萬衆ヲ治ス。請フ將軍ト吳ニ會獵セント。吳ノ群臣、大ニ超ヒテ操ヲ迎ヘント云フ。唯、周瑜、魯肅、之ヲ聽カズ。權即チ意ヲ決シテ、周瑜ヲシテ三萬人ヲ督セシメ、劉備ト力ヲ協セテ曹操ヲ撃タントス。即チ火攻ノ計ヲナシ、燥荻枯柴ヲ舟ニ滿載シ、之ニ油ヲ注ギ、帷幔ヲ以テ、之ヲ包ミ蔽ヒ、輕軻ヲ備ヘ、其ノ尾ニ付シ、赤壁ニ會戰セントス。時ニ南風甚ダシク、敵船ヲ去ルコト二里バカリニシテ、火ヲ發セシメシカバ、船ノ行クコト箭ノ如ク、煙焰天ニ漲リ、人馬死スルモノ無數。周瑜等、輕銳ヲ以テ之ニ次ギ、大ニ之ヲ破レリ。操僅ニ身ヲ以テ免ル。八、結果…江南ノ地多ク孫權ニ歸ス。我ガ紀元八六八年ナリ。

一六、三國分立

イ、劉備

蜀漢ノ地方ヲ得、孫權ノ援助ニヨリテ、大ニ曹操ノ軍ヲ赤壁ニ破ル。

ロ、曹操

魏ノ地方ヲ得テ、揚子江以北ヲ平定ス。

ハ、孫權

吳ノ地方ヲ得テ、揚子江以南ヲ平定ス。

一七、東漢滅亡…事實

1、獻帝ナホ位ニアリシモ、唯、空位ヲ守ルノミニシテ、其ノ實ナシ。曹操死シ、子丕繼グニ及ンデ、位ヲ奪ヒテ、洛陽ニ都ス。我ガ紀元八八〇年。

2、…東西併セテ四〇六年。

1、蜀……
 劉備ノ子、劉禪吳ト相和シ、諸葛亮ノ策ヲ用ヒテ、魏ヲ伐ツコト前後七年ノ長キニ亘レリ、魏將司馬懿ト五丈原ニ戰フ。時ニ亮ハ、陣中ニ歿ス。

諸葛亮ハ、人ト爲リ、最モ英邁ニシテ、事ニ當リテ、戒謹、整齊、號令明白ナリ。劉備ニ事ヘテ、専ラ忠誠ヲ盡ス。備ノ歿スルニ及ビテ、遺詔ヲ奉ジテ、中原ヲ平定セントセリ。其ノ魏ヲ伐ツニ當リ、上表シ、皇帝ニ臨ムニ、宮中ノ事ハ、

一八、三國攻争…事實
 ト其滅亡

ハ、爲人又劉備ト自己トノ關係ヲ陳シ、其ノ終ニ曰ク、今南方既ニ定マリ、軍兵已ニ足レリ。當サニ三軍ヲ獎メ、北中原ヲ定ムベシ。庶幾ハクハ、鷲鉤ヲ盡シ、姦兇ヲ擯斥シ、漢室ヲ復興シ、舊都ニ歸ルコトヲ得バ、此レ臣ガ先帝ニ報ジ、陛下ニ忠ナル職分ナリト。其ノ誠忠想像スルニ餘アリ。

諸葛亮

諸葛亮ハ、吳ト相和シテヨリ、國力ヲ養ヒ、兵甲ヲ増シ、又南夷ノ孟獲ヲ平ゲテ、後顧ノ患ヲ除キ、遂ニ諸軍ヲ率キテ、魏ヲ伐ツ。發スルニ臨ミ上表シ、頗ル忠懇惻怛ノ情ヲ極メタリ。亮進ンテ祁山ヲ圍ム。隴西ノ緒郡之ニ應ズルモノ多シ。時ニ魏ハ、明帝位ニアリ、張郃ヲ遣ハシテ之ヲ防ガシム。魏、蜀ノ兵、街亭ニ戦ヒ

蜀ノ魏ノ攻争

シガ、蜀ノ將馬稷、亮ノ節度ニ違ヒタルヲ以テ、蜀ノ兵大敗シ、漢中ニ歸ル。既ニシテ、亮又上表シテ、蜀ノ魏ト兩立スベカラザルヲ陳ジ、兵ヲ出シテ、陳倉ヲ圍ミタリシガ、糧盡キテ歸レリ。後又兵ヲ出シテ、祁山ヲ圍ミシト雖モ、魏將司馬懿來リ防グ。後糧盡キテ歸レリ。我紀元八九四年、復魏ヲ伐チ、兵ヲ分ツテ、屯田シ、持久ノ計ヲナセリ。又

1、失政

1、子弟ヲ要地ニ報ジ、以テ藩屏トナシタリシガ、却テ諸王跋扈ノ原因トナルニ至ル。
 2、内地ニ雜居スルトコロノ塞外人種ヲ險束シタルニ、其ノ方法ヲ誤レリ。

吳ニ約シテ、魏ヲ侵サシム。明文ノ來リ防グニ及ビテ、却ケラル。亮ハ、司馬懿ト相持スルコト、百余日亮屢々戰ヲ挑ミシトイヘドモ、懿ハ壘ヲ高クシ、溝ヲ深クシテ、之ニ應ゼズ。幾バクナラズシテ、亮ハ、軍中ニ死セリ。故ニ蜀ハ遂ニ軍ヲ班セリ。

一、武帝ノ政治ノ影響

四、八王ノ亂

1、原因
 武帝吳ヲ滅シテヨリ、漸ク政ニ倦ミ、内ハ、遊宴ニ耽リ、又經國ノ策ヲ講ゼザリキ。惠帝立チテ、賈后、政ヲ恣ニシテ、汝南、楚ノ二王ヲ殺シ、又楊太后、太子誦ヲ殺ス。是ニ於テ、趙王尙兵ヲ舉ゲテ賈后ヲ殺シ、遂ニ惠帝ヲ黜ケテ、帝ト稱ス。齊王ハ、河南、成都ノ二王トトモニ、趙王ヲ誅シテ、惠帝ノ位ニ復セリ。然ルニ諸王ハ、相乖離シ、長沙、東漢ノ二王ハ、新ニ居リ、互ニ政權ヲ争ヒテ、殘虐ヲ極メタリ。

2、事實

ハ、夷狄侵入
此ノ機ニ乗ジテ、内地ニ侵入シ、西晋ハ、之ガタメニ滅サル。

二、清談流行

八王ノ亂後、宗室ノ殘戮スル間ニ、下ニハ清談行ハレ、士氣大ニ腐敗セリ。清談トハ、俗談ニ對スル名稱ニシテ、一切世事ニ關係セザル空想ヲ談スルヲ謂フ。其ノ起因ハ、既ニ魏ノ世ニアリ。漢末ニ清節ヲ尙ヒタル極士風固陋ニ陥リタル反動トシテ、頗ル氣節ヲ賤メ、時ニ浮沈スルヲ尙フニ至レリ。之ニ依リテ、朝野翕然トシテ、風ヲ承ケ、大臣以下、諸氏ニ至ルマデ、殆ド一人ノ國事ヲ憂フルモノナシ。國內ノ狀、連斯クノ如シ。此ノトキニ當リ、夷狄四方ニ蜂起シ、連リニ内地ヲ侵シ、遂ニ晋都洛陽ハ、陥ルニ至レリ。

三、五胡十六國ト東晋

1、名稱：匈奴、羯、鮮卑、氐、羌ヲ云フ。

い、原因
塞外人種ノ内地ニ移住シ次第ニ強力ノ盛大トナルニ至レルモノナリ。

A、匈奴
晋衰ヘテ匈奴ノ高劉淵平陽ニ據リテ、國號ヲ漢ト改ム。武略絶倫ニシテ勢頗ル隆盛ナリ。

B、羯
魏淵ノ臣石勒最モ驍勇ナリ。晋ヲ亡シテ趙王ト稱ス。

イ、五胡

2、來歴

一、五胡八十六國

ろ、事實

慕容儁ハ、漢趙ノ相爭
フトキニ起リ、河北ヲ
鮮卑
占領シ、終ニ中國ニ入
リテ、鄴ニ都ス。稍盛
ナリ。

D、氏…
其ノ會符健ハ、王猛ヲ
用ヒテ、勢力頗ル強大
トナレリ。遂ニ天下ノ
八分ヲ占領シ、更ニ九
十萬ノ大軍ヲ起シテ、
江南ヲ呑マントス。東
晉ノ將謝玄兵八萬ヲ以

E、羌…
以テ、女ニ澗水ニ逆擊
シテ、晉軍ヲ破レリ。
初メ青海ニアリシガ、
氏ト共ニ 西藏族ニ屬
ス。羌會姚才仲ハ南安
ニ起リヌ。

- 漢。
- 後燕。
- 前秦。
- 北燕。
- 北涼。
- 西秦。
- 後涼。
- 北涼。
- 夏。
- 南燕。
- 後秦。
- 南涼。
- 前涼。
- 西涼。
- 後趙。
- 前燕。
- 成。

石勒ハ、劉淵ノ部將トナリ、劉聰、劉曜、
王彌等トトモニ、晉ニ迫リ、洛陽ヲ陷イ

石勒ノ亂

レ、次デ長安ヲ取レリ。劉曜ハ、淵ノ族子タルノ故ヲ以テ、長安ニ自立シ、國號ヲ趙ト云フ。石勒モト劉曜ヲ忌ミテ、隙アリケルガ、曜ガ、勒ノ使者ヲ殺スニ至リ、勒ハ、遂ニ曜ヲ立テ、別ニ國ヲ立テテ、趙ト號シ、襄國ニ都セリ。我が紀元九百八十八年。曜ハ、勒ト洛陽ニ戰ヒ、大敗シテ擒トナル。是ニ於テ、漢ノ舊土ハ、悉ク石勒ノ有ニ歸ス。勒、遂ニ帝ヲ弑シ、南方東晉ヲ伐チ、大ニ地ヲ江唯ノ間ニ開キ、其ノ勢、甚ダ盛ナリ。氏王蒲洪、羌酋姚弋仲等、皆趙ニ降ルニ至レリ。勒帝之ニ居ルコト六年ニシテ歿ス。

初メ元帝ノ江東ニ國スルヤ、専ラ王氏ノ力ニ依レリ。故ヲ以テ、王氏ノ子弟皆顯要ニ列ス。王敦ハ、王氏ノ長者ニシテ、兵權ヲ統ブルヲ以テ、勢力甚ダ盛ナリ。漸ク驕恣トナル。其ノ從弟王導又機務ヲ專ラニナシタルヲ以テ、時人ハ、王ト馬ト天下ヲ共ニスト云フモノアリ。帝之ヲ惡ミテ、其ノ權ヲ抑損セント欲シ、劉隗、刀協ヲ引キテ、腹心トナシ、稍王武王ノ權ヲ押ユ。敦ガ參軍、試鳳等ノ意志アルヲ知リ、敦ニ勸メテ、兵ヲ舉ゲ、劉隗、刀協ヲ誅スルヲ名トシ、進ミテ石頭城ニ至

2、王敦ノ亂

レリ。帝王導ヲ以テ、前ノ大都督トナシ、諸將ヲ率キテ、會戰シタリシガ、皆大敗シテ歸レリ。元帝止ムコトヲ得ズ、百官ヲ遣ハシテ、敦ニ見エシメ、大赦シテ敦ヲ丞相、都督中外諸軍事、江州ノ牧トナス。敦益暴慢甚ダシク、且ツ錢鳳等威權ヲ擅ニナシタリシガ、其ノ將ニ敗レントスル萌芽モ亦是ニ發シタリ。時ニ元帝ハ、憂憤ノ餘、病ヲ發シテ崩ズ。明帝立ツ。王敦遂ニ位ヲ篡奪センコトヲ謀ル。明帝、敦ヲ伐タントス。會、敦、病ヲ發シテ、帝迎ヘ討ツコト能ハズ。兄王含ヲシテ健

康ニ向ハシム。明帝自カラ奮戦シ、含ノ軍ヲ破リシカバ、敦病ヲ押シテ起タントシ、遂ニ死ス。是ニ於テカ、官軍ハ、大ニ軍ヲ破リテ、錢鳳以上ノ諸將ヲ誅シ、悉ク内亂ヲ定ム。成帝ノトキ、王尊瘦亮ト共ニ政治ヲ執リシガ、王敦ノ亂後、未ダ幾バクナラズシテ、又蘇峻ノ反ヲ見ルニ至レリ。王導ハ溫和ヲ以テ、人望ヲ得タリシガ、瘦亮施政スルニ當リテ、偏狹多ク、頗ル人望ヲ失ヘリ。峻ハ、前ニ臨淮ニ守タリ。王敦再ビ闕ヲ犯シタルトキ、入衛シテ大功ヲ

3、蘇峻ノ反

立ツ、威望漸ク着ル。曆陽ニアルニ及ビ、卒銳ク、器精ニ、頗ル朝廷ヲ輕ンジ、亡命ノ士ヲ招ク。庾亮、峻ノ異謀アルヲ知リ、峻ヲ召シテ大司農トナシ、陽ニ尊重ノ意ヲ示シテ、陰ニ其ノ兵權ヲ奪ヒ、其ノ異謀ヲ未發ニ止メントス。蘇峻モ亦其ノ意ヲ知リ、其ノ召ニ應ゼズ、遂ニ兵ヲ擧ゲテ、反シ、姑熟ヲ陷イレ、進ミテ闕ヲ犯シ、遂ニ成帝ヲ石頭城ニ遷セリ。庾亮、尋陽ニ走リ、鬪嶠、陶侃等ト共ニ兵ヲ進メテ、賊ヲ破リ、以テ峻ヲ殺セリ。之ヲ蘇峻ノ亂ト云フ

イ、西晋滅亡：漸次相衰ヘタリシガ、石勒ニ滅サル。

二、東晋ト南北朝

ロ、東晋ノ興亡

1、興起

司馬睿ハ、建業ニ都シ、僅ニ江南ヲ保テリ。之ヲ東晋ノ元帝ト云フ。名臣ニ王導アリト雖モ、内亂ノ爲メ、國務盛ナラズ。桓温、軍事都督トナリ、中原未ダ回復スルコトヲ得ズ。淝水ノ戦後ハ、内亂相次グニ至ル。

2、滅亡

相劉裕、内亂ヲ鎮定シ、且ツ外征ノ功アリ。遂ニ帝位ヲ奪ヘリ。後、健康ニ都ス。

3、南北朝

劉裕ハ、宋ノ武帝ト云ヒ、江南ヲ鎮スルヲ以テ、南朝ト云ヒ、江北ヲ北朝ト云フ。

一、澠水ノ戰

前秦ハ、符堅立テ、王猛ヲ任ジ、頗ル勢カヲ得、前燕、前涼、代ヲ定メテ、北方ヲ一統シ、更ニ高句麗、新羅、西域ノ諸國ヲ略取セリ。是ニ於テカ、符堅ハ、東晉ヲ亡サント欲シ、群臣ヲ會シテ之ヲ議セシム。群臣多ク會ノ非ヲ論ジタルニ、唯慕容垂及ヒ姚喜ノ二人ハ、專ラ南進セシムコトヲ勸メタリ。符堅遂ニ意ヲ決シ、戎卒六十余萬、騎兵二十七萬ヲ發ス。是等ノ諸將卒ハ、戰ヲ好マザルモノニシテ、且ツ各種ノ種族ヲ混ズルニ依リテ、勝敗ノ戰ハ、豫メ想察スルニ難カラザルナリ。

註

晉ハ、調石ヲ征討大都督トナシ、謝玄ヲ前鋒都督トナシ、以テ符堅ノ軍ヲ防ガシム。兩軍澠水ニ會スルニ及ビ、玄、人ヲシテ謂ハシメテ曰ク、陣ヲ移シテ少シク卻キ、我が兵ヲ渡ラシメ、以テ勝敗ヲ決セヨト。堅ハ、敵ノ半ハ渡ルヲ見テ、之ヲ破ラント欲シ、兵ヲ麾テ、少ク卻カシム。秦ノ兵退キ、又止ムベカラズ。時ニ朱序、陣後ニアリテ、曰ク、秦兵大敗スト。士卒之ヲ聞キテ、益奔ル。玄等追撃シテ、大ニ秦兵ヲ破ル。堅ハ僅ニ身ヲ以テ遁レ、長安ニ歸レリ。

2、江北分略

渭水ノ戰ニ於テ、大敗ヲ取リテ、長安ニ遁レ歸リシヨリ、前ニ天下ヲ動カセタル勢力モ、今ハ、全ク地ニ墜チテ、國內ニ雜居セル各種ノ種族ヲモ制スルコト能ハザルニ至レリ。即チ後燕、後秦、西燕、西秦、後涼、代ハ、先ヅ起リ、後秦ノ姚襄ハ、符堅ヲ執ヘテ、關中ヲ定メ、後魏ノ慕容垂ハ、西燕ヲ亡シテ、關東ヲ平定シ、代ノ拓跋珪ハ、國號ヲ後魏ト改メ、後燕ヲ破リテ、平襄ニ都シ、以テ帝ヲ稱セリ、之ヲ道武トナス。時ニ南燕、西燕、後涼、北涼、南涼、又新ニ起リシガ、後

秦ハ、後涼ヲ合セ、勢甚ダ強勢トナルニ至リシカバ、西涼、南涼、北涼、東晉、ナ好ヲ通ズルニ至レリ。

後魏ノ統一

- 1、由來
西晉ノ末ヨリハ、塞外人種ノ江北ニ相抗
争シ、其ノ間百三十余年ニ及ベリ、其ノ
滅亡セル列國ハ、十六、種族五。
- 2、興起
前秦ハ、淝水ニ敗レ、五胡十六國各一方
ニ割據ス。鮮卑ノ拓跋珪、平城ニ都ヲ定
ム、後魏ノ道武帝、即チ是ナリ。
- 3、一統
益々強大トナリ、太武帝ハ、江北諸國ヲ
一統ス。
- 1、盛世
西域治國ヲ招致ス。騷亂ノタメ交通
ノ杜絶セルニ至ル。
大ニ匈奴ノ別種柔然ヲ擊破ス。
大ニ南朝ナル宋ノ文帝ノ軍ヲ擊破セ
リ。

常ニ北方ヲ統一シ、其ノ勢、甚ダ盛
ナリ。宋ノ河南ノ地ヲ取レリト聞キ、
怒リテ曰ク、我レ生レテ髮未ダ燥カ
ザルニ、河南ハ我ガ地ナリト聞ケリ。
何ゾ宋ノ無禮ナルヤ。我レ必ズ河水
ノ合スルヲ待チテ、鐵騎直ニ以テ之
ヲ蹂躪セント。是レヨリ先キ、宋魏
ハ、連年互ニ相侵伐シタリシガ、王
玄謨、宋ノ文帝ニ勸メテ、後魏ヲ討
タントス。沈慶之ヲ諫メテ曰ク、耕
事ハ、當サニ奴ニ問フベシ、織事ハ、
常ニ婢ニ問フベシ。今何ヲ以テ、國

三、後魏

隆運

太武帝、宋ニ侵入始末

事ヲ百面ノ書生ニ諮ルヤト。文帝其言ヲ聽カズ。玄謨ヲシテ、師ヲ出サシメ、碣磔ヲ取り、滑臺ヲ圍マシム。太武帝是ニ於イテ、自カラ將卒ヲ率キテ、河ヲ渡ル。衆百萬ト號ス。旗鼓ノ聲、天地ニ震フ。玄謨恐レテ走ル。魏人之ヲ追フテ南下シ、楊子江上ニ至リテ、江ヲ渡ラント聲言ス。宋ノ健康ノ人民、大ニ驚キテ、逃避スルモノ多カリシガ、遂ニ江ヲ渡ラズシテ、師ヲ班セリ。此ノ舉ヤ、江北六州ノ地ハ、侵掠ヲ受ケ、過グル

1、事實

2、太武帝ノ功…多クハ太武帝ノ功ニ依レルナリ。

トコロ、赤地トナラザルハナク、家屋ハ、兵燹ニ罹リ、其ノ狀、悲酸ヲ極ムルニ至レリト云フ。

後魏ハ、モト夷狄ヨリ起リタルモノナルヲ以テ、刑罰濫ニシテ文物備ハラズ。孝文帝ノトキ、禮制ヲ舉行シ、百般文物、略備ハル。又國俗ノ卑陋ヲ革メンガタメニ左ノ手段ヲ行フ。

A、都ヲ洛陽ニ遷シ、胡服、胡語ヲ廢シ、一ニ中國ノ風ヲ採用ス。

ハ、改革ト
衰微ト

2、結果

功臣舊族ノ多クハ國風ヲ慕ヒ、此ノ方法ヲ喜バズ。タメニ反ヲ謀ルモノアリ。且ツ是レヨリ華奢柔弱ノ風行ハレ、遂ニ國勢衰微ノ一端トナルニ至ル。

1、後魏ハ、孝文帝ノ後、内亂起リ、東魏、西魏ニ分ル。

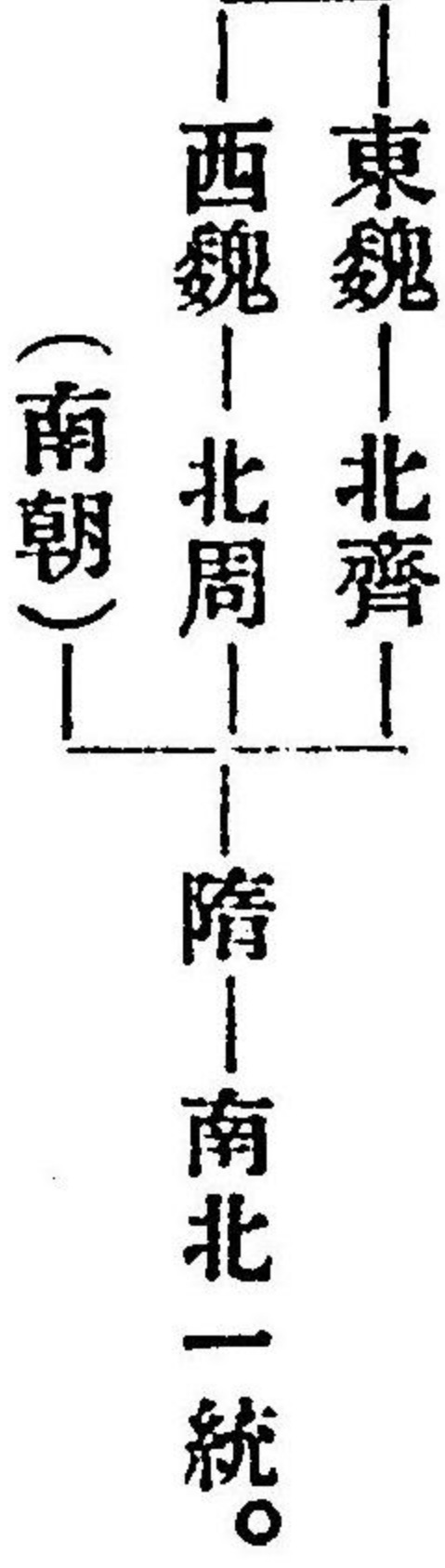
- 2、東魏ハ、鄴ニ都シ、西魏ト相争フ。
- 3、西魏ハ、長安ニ都シ、東魏ト相争フ。
- 4、東魏ハ、北齊ニ亡ボサレ、西魏ハ、北周ニ亡ボサル。後、北周ハ、北齊ヲ併吞ス。

ろ、宗室ヲシテ中國ノ各族ト婚セシメ、漢人種ト離婚スルコトヲ獎勵ス。

イ、事實

四、北朝
沿革

ロ、分合…北朝



北周ノ楊堅亦北周ヲ奪ヒ、長安ニ於テ、帝位ニ即ク。隋ノ文帝是レナリ。文帝更ニ南朝ヲ亡ボシテ一統ス。

イ、事實

- 1、宋亡ビテ齊ヨリ梁トナル。
- 2、梁武帝仁慈ニシテ博學ノ名君ナリト雖モ、佛教ニ迷ヒ之ニ依リテ、武備ヲ怠リシヲ以テ、遂ニ滅亡シ、陳ハ、之ニ代リ、更ニ隋ニ亡ボサレタリ。

ロ、興亡…南朝—宋—齊—梁—陳—隋—南北一統。

五、南朝
沿革

六、南北朝時代

イ、時代…對立スルコト約百五十余年。

ロ、治亂 最モ紛亂ヲ極ム。其ノ間二十有余主、其ノ半バハ、篡奪ニ逢フ。

ハ、文藝…文物學藝共ニ衰微ニ傾ク。

ニ、佛敎 流行盛ナリ。其ノ結果、繪畫、彫刻ハ、大ニ進歩ス。

註

南北朝ノ時代ニハ、社會ノ規律ハ、大ニ紊レタルガ如シ。彼ノ弒逆ノ多キ、又放縱淫佚ノ君多キガ如キキハ、之ガ原因ナクンバアラス。蓋シ北朝ハ、夷狄ヨリ起リタルモノニシテ、聖人ノ道ハ、更ニ解スルコトナク、南朝ハ、東晉遊惰ノ餘風ヲ受ケテ、心ヲ教育ニ注グナク、又前秦ニ衛道安、後秦ニ鳩麻維什出デシヨリ、佛

敎ハ、益々盛ニ、南北朝ニ至リテハ、其ノ盛ヲ極メ、古來ヨリ行ハレタル儒敎ハ、其ノ影響ノ爲メニ、秩序ヲ破ラレタルガ如キ、社會ノ規律ヲ紊シタル原因ナラズンバアラス。

四、隋、唐

一、文帝ノ事績

1、勤儉、仁慈、内治ニ努ム。
2、刑法、官制等ノ如キ、制度頗ル見ルベキアリ。

イ、豪華

1、土木ヲ興シ、離宮ヲ造リ、豪華ヲ極ム。
2、運河ハ、盛ニ開カレ、實ニ莫大ノ勞力ヲ用フルコト、ナル。

二、煬帝ノ事績

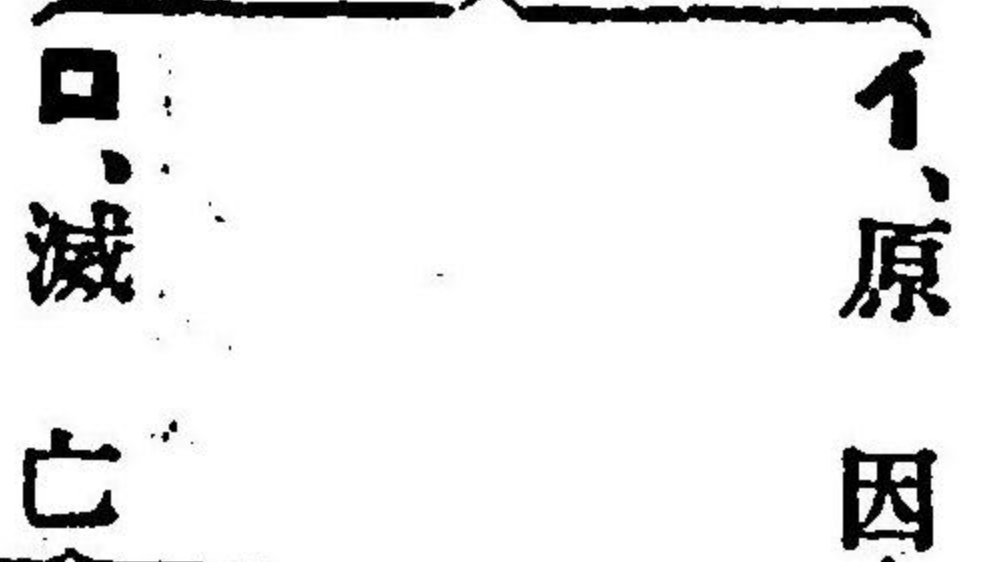
ロ、外征修交

1、西域ニ使ヲヤリテ、之ヲ招致セリ。
2、林邑、流求(臺灣)吐谷渾トコクンヲ征伐ス。吐谷渾ハ青海地方ノ鮮卑ナリ。
3、高句麗ヲ征伐シテ、大ニ敗ル。
4、我ガ日本トノ交通ハ、此ノトキニ始マル。

註、大土木

長安ヲ以テ、西京トナシ、洛陽ヲ以テ、東都トナシ、丁二百萬人ヲ役シテ、大ニ都城、宮殿ヲ營ミ、西苑ヲ築キテ、山地ヲ造リ、海内ノ嘉木、異草、珍禽、奇獸ヲ求メテ、苑囿ニ充ツ。又民百萬ヲ發シテ、運河ヲ開ク。今ノ江蘇ニアルモノ、即チ是レナリ。尋テ又水濟渠ヲ開ク。今ノ衛河ニシテ、山東以北ノ運河ヲナス。又江南河ヲ穿ツ。今ノ浙江ノ運河、是レナリ。其ノ他到ル處、河ヲ通ジ、長安ヨリ舟行シテ、江南ニ相達スルコトヲ得セシメ、其ノ間ニ四十余ノ離宮ヲ置キテ、巡遊ノ用ニ供シ、又長城ヲ西北ノ二邊ニ増築ス。其ノ人民ヲ役スルコト、幾千萬人ナルヤ、數フベカラズ。是ニ於テ、民頗ル服役ニ苦ムニ至ル。

三、唐ノ滅亡



楊帝ハ、土木ニ外征ニ、頻年休止スルコトナカリシカバ、人民其ノ負擔ニ苦ミ、亂ヲ懷フニ至レリ。帝ノ極東ニ大敗スルニ及ンデ、盜賊ハ、各地ニ横行シ、群雄四方ニ割據シ、王、又ハ帝ト稱スルモノアリ。李淵ハ、其ノ子李世民ト共ニ、兵ヲ舉ゲテ長安ヲ陥レ、唐ノ高祖トナル。我が紀元一二七〇年ナリ。

2、楊帝ハ、江都ニ於テ弒セラレ、李世民、天下ヲ一統ス。唐ノ太宗是レナリ。

當時隋ハ、四方ニ群雄起リ、海内亂レテ、麻ノ如シ。此ノトキニ際シ、突厥ハ勢漸ク強大トナリ、楊帝ノトキ、事ヲ以テ、

註

李世民、李淵ニ勸メテ舉兵セシム

隋ヲ恨ミ、北邊ニ冠セルヲ以テ、帝、李淵ヲ以テ、太宗留守トナシ、北邊ニ備ヘシメタリシガ、李淵功アラズ。罪セラレシコトヲ恐ル。時ニ淵ノ二子世民、年十八ニシテ、聰明英毅、加フルニ謀略アリ。海内ノ亂レタルヲ見テ、慨然トシテ天下ヲ安ンゼンコトヲ欲シ、兵ヲ擧ゲンコトヲ父ノ淵ニ勸ム。淵之ニ從ヒ、揆ヲ突厥ニ借り、遂ニ諸軍ヲ合セテ、長安ニ入ル。時ニ楊帝ハ、江東ニ巡遊シ、代王侑ヲシテ西京ヲ、越王侗ヲシテ東都ヲ留守セシム。李淵ハ、江東ニアル楊帝ヲ稱シテ、

上皇トナシ、代王侑ヲ奉シテ恭帝トナシ、自カラ大丞相トナル。次テ恭帝ノ讓ヲ受ク。之ヲ唐ノ高祖トス。

四、貞觀ノ治

- 1、貴相…杜如晦、房玄齡等。
- 2、諫臣…魏徵、王珪等。
- 3、名將…李勣、李靖等。
- 4、治績…奢ヲ去リ、賦ヲ輕クシ、利ヲ寬ニシ、武ヲ整ヘ、學ヲ勸ムル等ノコトヲナシタルヲ以テ、國內ハ、太平ニシテ國威ハ、外ニ振フ。
- 5、時代…太宗ノ時。

- A、…天下ノ大政ヲ統ブ。
- B、中書門下ノ二省ヲ經テ、確定セル詔勅ヲ天下ニ施ス。
- C、租稅（禮（教育禮儀）刑（刑

古

イ、官制

1、中央府

〔律〕工（工藝）ノ六部アリテ、行政ヲ分擔セリ。

ろ、中書省…詔書宣布ヲ司ル。

は、門下省…詔勅ノ審査ヲナス。

〔註〕 尙ホ其ノ他一臺、五監、九寺ノ官府アリ。

い、…行政區ヲ十道ニ分ツ。

ろ、概觀 每道ニ巡察史アリテ。州縣ヲ監ス。

2、地方官

は、區別 A、州…刺史アリテ、地方ヲ治ム。 B、縣…令アリテ地方ヲ治ム。

ロ、均田法ト庸調租ノ

1、由來

井田ノ法ハ、漸次壞廢ニ屬シ、富豪ハ土地ヲ兼併シ、從ツテ貧民ノ困窮最モ甚ダシク、唐之ヲ改ム。

2、法

十八歳以上ノ丁年ノ男子ニハ、各官田百畝ヲ授クルコト、ナル。

い、租…以上ノ收穫中ヨリ粟ニ斟ヲ上納セシム。

3、税法

ろ、庸…丁男ヲ役シテ、毎年二十日間、或ル勞役ニ服セシム。

は、調…土地ニヨリテ、絹、綾、施、綿布、麻等ノ産物ヲ出サシムルコトヲ云フ。

五、官制
其他ノ制

口、兵制

1、兵數

十道合セテ、百三十四縣アリ。每府平均約千人ノ兵ヲ設ケリ。

2、服務

常備ノ兵ハ、地方ヲ鎮メ、且ツ毎年上番シテ、禁衛ヲナス。

3、組織

イ、火…十人、火長一人。
ロ、隊…五十人、隊正一人。
ハ、團…三百八人。校醫一人。

4、兵役

二十歳ニシテ、兵トナリ、六十歳ニシテ免役セラル。毎年季冬、軍陣進退ノ法ヲ習ハシム。

1、學校

イ、京師 國子學、大學、四門學、律學、書學、算學等。
ロ、地方…府學、州學、縣學等ノ如キアリ。

ハ、學制
吏ノ用法

2、學課目

唯、經書ヲ用フルノミ。大中及ビ小經ナリ。乃チ禮記、左傳ノ大經、詩、周禮、儀禮ノ中經及ビ書、易、公羊、穀梁等ノ小經ナリトス。

イ、生徒

京師及ビ地方ノ學校ノ出身者ナリ、

ロ、郷貫…州縣ヨリ推舉スルモノナリ。

3、試験科

毎年尙書省ニ於テ、右ノ生徒及ビ郷貫ヲ試験スルモノトス。

尋々經義及ビ時務策トス。其ノ學科ハ、經學ヲ主トス。

は、試験
學科

B、ル明經ニハ、大中小經ヲ用
ヒ、又文學ヲ主トスル進士
ニハ、詩賦ノ制ヲ試ム。
C、試験ニ及第シタルモノヲ以
テ官吏ニ任ズ。
D、フモノニシテ非常ノ秀才ヲ
制舉ハ、王子親カラ之ヲ行
持ツ。

1、笞

刑

之ヲ五等ニ分タル。即チ十、二十、三十、四十及ビ五十トス。

2、杖

刑

之ヲ五等ニ分タル。六十、七十、八十、九十及ビ百トス。

二、法制

3、徒

刑

之ヲ五等ニ分タル。一年、一年半、二年、二年半、及ビ三年トス。

4、流

刑

之ヲ三年ニ分タル。二千里、二千五百里及ビ三千里トス。

5、死

刑

絞、斬ノ二等ニ分タル。其ノ輕重ニ依リテ、之ヲ二十等ニ分タル。相當ノ銅ヲ納ル、トキハ、之ヲ償フコトヲ得。

イ、勢力

東ハ、朝鮮、滿州ニ達シ、北ハ、内外蒙古ニ及ビ、西ハ、天山南路、天山北路、中央亞細亞、南ハ、後印度ニ及ベリ。

1、概観…六都護府ヲ置キテ、之ヲ管治ス。

六、唐初ノ
管治

口、管治

2、都護府

は、北庭
都護府

庭州ニ置ク。此ノ地ハ、天山北路ニシテ、現今ノ化府ナリ。天山北路ヲ管ス。

は、單于
都護府

雲中城ニ置ク。此ノ地ハ、山西省大同府ノ西北ニアリ。内
蒙古ヲ管治ス。

ろ、安北
都護府

初メ都斤山邊（外蒙古）ニ置
キシガ、後陰山ノ麓ニ移ス。
外蒙古ヲ管治ス。

い、安東
都護府

初メ平壤ニ置キタリシガ、後
之ヲ遼東城ニ移ス。滿州及ビ
朝鮮ヲ管治ス。

東洋史

イ、東突厥
國

1、起

因

初メ阿爾泰附近ノ地ヲ領シ、稍勢力アリ
テ、柔然ニ隸屬セル一
種族ナリ。

に、安西
都護府

初メ高昌ニ置キタリシガ、後
龜茲、今ノ庫車ニ移ス、天山
南路中央亞細亞ヲ管ス。

ほ、安南
都護府

交州ニ置ク。此ノ地ハ今ノ東
京ノ河内ナリ。南海諸島ヲ管
ス。

六朝ノ末ニ於テ、其ノ勢力ハ、
大ニ強大トナリ、柔然ヲ滅シ、
内外蒙古、新疆及ビ中央亞細
亞ノ諸國ヲ滅ボシ、之ヲ占領

中

古

2、興亡

い、興隆シテ、其ノ領域廣大トナリ、外蒙古ヲ根據トナシテ、東ハ、北周、北齊ニ寇シ、西ハ、波斯ヲ侵セリ。

ろ、滅亡 唐代ニ至リテ、内亂起リシガ、太宗、李靖、李勣ヲ遣ハシテ之ヲ滅ス。我が紀元一二九〇年。

1、西突厥

東西ニ分レテ、内亂ノ起リシガ、高宗ハ、之ヲ平定セリ。

2、波斯

一時國運發展シテ、其ノ勢力、甚ダ盛ナリシガ、東突厥ト戦ヒ、西羅馬ト争ヒテ、終ニ唐ノ保護トナルニ至ル。

七、唐代ノ外交

3、大食國

ムハメツトノ起ルアリテ、回回教ヲ唱ヘ、部落ヲ統一シテ、波斯ト戦ヒテ、之ヲ破リ、唐ノ高宗ノ初年ニ於イテ、使ヲ唐ニ遣ハシ、爾後シバク使ヲ唐ニ送レリ。今ノアラビヤ是レナリ。

4、吐谷渾

青海附近ニ住セリ。太宗ハ、李靖ヲ遣ハシテ之ト戦ヒ、遂ニ占領ス。

5、吐蕃

唐代ノ初ニ至リテ、南ハ、アッサム及ビネパールヲ降シ、東ハ、吐谷渾ヲ破ル。唐ノ軍、之ト戦ヒテ、勝敗アリ。遂ニ和ヲ講ズ。太宗ハ、文成公主ヲ妻ハス。我が紀元一三〇一年。吐蕃ハ、今ノ西藏ナリ。

口、沿革

6、印度

國王ハ、唐ノ富強ナルヲ聞キ、好ヲ通シ、後内亂起リシカバ、唐ニ背ケリ。唐ノ將ハ、吐蕃及ビオパールノ兵ヲ徵シ、其ノ首魁ヲ捕ヘテ、以テ歸ル。

西漢ノ衰連ニ傾ケル頃、滿州人朱蒙ナルモノ、其ノ部下ヲ率キテ、鴨綠江ノ上流ニ至リテ、高句麗國ヲ建テ、次テ南下シテ、馬韓ノ地ニ百濟ヲ建テ、且ツ同時ニ辰韓ノ一部ニ於テ、新羅ノ起ルアリテ、辰韓、辨韓ヲ併吞セリ。神功皇后、百濟ヲ保護國トナシ、日本府ヲ建テリ。斯クテ後、新羅ノ勢力ハ、強大トナリシガ、

7、三韓

8、日本トノ交通

高宗ノ時ニ至リテ、兵ヲ遣ハシ、朝鮮半島ヲ一統セシガ、新羅ハ、唐ニ背キテ、自カラ半島ヲ占領スルニ至レリ。我が國トノ交通ハ、舒明天皇ノトキニアリ。遣唐使ヲシテ、僧侶、學生ノ留學スルモノ少ナカラズ。宇多天皇ノ世ニ至リテ、之ヲ廢ス。

初メ高祖ハ、突厥ノ力ヲ借リテ、兵ヲ擧ゲタリシガ、海内ヲ統一スルニ及ンデ、突厥ハ、シバノ邊境ヲ侵スニ至レリ。蓋シ隋ノ姻戚タルヲ以テノ故ナリ。太宗ノトキ頡利突厥ハ、二可汗十余萬騎ヲ併セ

1、太宗ノ突厥平定

テ、入寇スルニ至リシガ、志ヲ得ズシテ退ケリ。後頡利ト突利トノ間ニ隙ヲ生ジ、且ツ國內大ニ亂レ、加フルニ饑饉ニ際シタリシカバ、太宗ハ、其ノトキニ乘ジ、李靖ヲシテ頡利ヲ擒ニセシム。時ニ突利ハ、既ニ唐ニ入朝シ、臣禮ヲ取リタルヲ以テ、突厥ノ地、悉ク平定セリ。依テ左右ニ定襄、督、雲中都督ヲ置キテ、之ガ治ヲ圖レリ。

アルサクス一世、安息國ヲ起シタルヨリ、安息ハ、西方亞細亞ノ一大強國トナリシガ、アルサクス十四世ノ即位スルニ及ン

註

2、安息國滅亡

テ、羅馬國ト衝突シ、ユーフレーツ河邊ニ於イテ、雌雄ヲ争ヒタリシガ、波斯人ハ、此ノトキ、安息ノ勢威ヲ失ヒ、且ツ疲勞セルヲ見テ、アルタ、リセルクセス一世、波斯國人ト共ニ遂ニ安息國ヲ亡セリ。時ニ我が紀元八八六年ナリ。

高句麗ハ、隋ノ煬帝ノ兵ヲ破リタルヨリ勢漸ク強ク、百濟ト連合シテ、新羅ヲ攻ム。新羅ハ、唐ニ結托シテ、獨立ヲ維持セント謀レリ。當時高句麗ニハ家蓋蘇文ナル大臣アリテ、權ヲ専ラニシテ、其ノ君ヲ殺シ、王ノ從子、喬藏ヲ立テ、威福

3、高句麗征略

ヲ擅ニス。唐ノ太宗、既ニ東突厥ヲ滅シ、勢ニ乗ジテ、高句麗ノ内難ニ機會ヲ得ント欲ス。會、新羅ノ朝貢ヲ妨グルニ及ンデ、海内ノ大軍ヲ發シ、之ヲ親征シテ、遼東城ヲ拔キ、白巖城ヲ降シ、安市城ヲ圍ム。容易ニ拔クコト能ハズ。天寒ク、食盡キ、人馬凍飢、大敗シテ歸ル。我が紀元一三〇五年ナリ。

一ニソロアスタ教ト云フ、太古バクトリア地方ニ起リ、ソロアスタナルモノノ創唱ニ係レリ。此ノ教ノ主旨トスル所ノモノハ、陰陽ノ二神ガ、宇宙ヲ支配スルト

1、宗教

1、祇教

ナシ、陽神ヲ以テ、至善ノ神トナシ、陰神ヲ以テ、至惡ノ神トナセリ。陽神ヲ奉ズルトキハ、陰神ヲ避クルコトヲ得ルトナス。而シテ火ヲ以テ、陽神ヲ表ハシ、常ニ火ヲ拜セリ。一ニ又拜火教ト云フ。

2、麻尼教

我が紀元八八〇年ノ頃ニ出デタル波斯人麻尼ノ主唱ニ係ルモノニシテ、火教ニ基キ、佛教、耶蘇教ヲ參酌シテ作レルモノナリ。

3、景教

耶蘇教ノ一ニシテ我が紀元一〇〇年ノ頃東羅馬ノ耶蘇教徒ネストルノ創唱セルモノナリ。

八、宗教文化

ロ、文化

4、回教

ムハメットノ主唱シ始メタルモノニシテ
一ニイスラム教ト云フ。

5、佛敎

益々盛大ナルニ赴キヌ。以上ノ四教ノ東
漸スルニ關セズ、其ノ信奉者ハ多クハ、
皆是レナリ。

佛敎ノ流行ノ結果トシテ、地理學、音韻學、印刷術、
繪畫、彫刻、建築等頗ル發達シタリ。

1、出身

高宗ハ、太宗ノ宮女、武ノ美ヲ聞キ、後
宮ニ入レテ、之ヲ寵シタリシガ、遂ニ立
テ、皇后トナス。高宗多病ニシテ政ヲ見
ルコト能ハズ、武后驚悍ニシテ、術略ア
リ、時ニ代リテ、政治ヲ裁決セシメタル

イ、則天武后ノ亂

2、事實

ニ、諸事皆其ノ意ニ適ヘリ。之ヨリ天下
ノ大權ハ、皆武后ニ歸スルニ至レリ。

い、宗室滅盡

高宗ノ病ニ乗ジ、太子ヲ廢立ス
ルコト四回、遂ニ自カラ帝位ニ
登リ、國號ヲ周ト改メ、帝ノ宗
室ヲ滅盡ス。

ろ、抑壓

國民ヲ壓制シ、酷吏ヲ任用シ、
大ニ殘忍ノ行ヲナシ、無辜ヲ殺
スニ至ル。

能ク賢能ヲ舉ゲ、其ノ職ニ適ハ
サルモノハ、直ニ之ヲ廢シ、賞
罰ノ柄ヲ失フコトナカリシカバ

九、武章ノ乱

3、結果

武后病ム。張柬之、兵ヲ率キテ、嬖倖ヲ斬リ、武后ニ迫リテ中宗ヲ復位ス。初メ中宗ノ廢セラレテ、慮陵ニアルヤ、皇后韋氏ハ、常ニ帝ノ側ニ侍シ、艱厄ヲ共ニス。帝深ク之ヲ恩トナシ、韋氏ト相約シテ曰ク、他日再ビ天日ヲ見ルコトアラバ、其ノ爲ニ任ゼント。故ニ位ニ復スルニ及ンデ、遂ニ朝政ニ與ルニ至ル。勢威朝野ヲ傾ク。已ニシテ淫行アリ。帝ヲ憚リ、遂ニ之ヲ弑シ、朝ニ臨デ、制稱

1、出身

人皆其ノ威德ニ服シ、其ノ塔ニ安ンズルコトヲ得タリ。

四、韋氏ノ乱

2、事實

ス。羽林將軍李多祥ト謀リ、兵ヲ擧ゲテ、除カントスルモ、事成ラズ。韋后ハ、尙行ヲ改メズ。淫亂暴虐、益甚ダシク、同族スベテ顯要ニ列ス。是ニ於イテ、變亂起ル。

3、結果

相王ノ子隆基、其ノ逆類ヲ除カント欲シ、兵ヲ起シテ、宮ニ入り、韋氏及ビ其ノ黨類ヲ誅シ、相王ヲ立ツ。之ヲ睿宗皇帝ト云フ。

イ、内治

禍亂ヲ鎮定シ、勵精、治ヲ圖リ、天下大ニ泰平ニ赴キ、戶口大ニ蕃殖シ、學問、宗教等、頗ル盛ニシテ、貞觀ノ治ニモ勝レリト云フ。

九、開元ノ治

口、文學一變

玄宗ハ、學ヲ好ミテ、大ニ之ヲ獎勵ス。初メ西漢以來辭賦大ニ流行シ、司馬相如、楊雄ノ輩、相前後シテ、輩出シ、艶麗ヲ爭ヒケルガ、唐初ニ至ルニ及ンデ、其ノ流弊ヲ受ケ、詩文共ニ纖弱ニ陥ルニ至ル。玄宗ノトキ、學者輩出シテ、之ヲ排斥シ、詩風ヲ一變シ、遂ニ後世ノ垂ル文モ完結セリ。其ノ後三十四年ヲ經テ、又學者ノ出ルアリテ、其ノ弊風ヲ一洗シタリ。

3、道教

1、性質

道家ノ學說ニ加フルニ、佛教ヲ參酌シタルモノヲ云フ。

2、結果

老子ヲ尊ビテ、之ヲ廟ニ祀リ、大ニ佛教ヲ迫害シ、寺院ヲ壞チ、僧尼ヲ還俗セシム。

之ニ依リテ、諸外教ハ、多クハ衰滅ニ歸セリ。

イ、原因

玄宗、初メハ勵精專ラ治ヲ圖リケルガ、後漸ク奢侈ノ心ヲ生ジ、政事ヲ姦臣李林甫ニ委シ、佞人ヲ親ミ、女色ニ溺レ、亡國敗家ノ兆、既ニ兆セリ。李林甫ハ、政ヲ擅ニナシ、賢ヲ黜ケ、言路ヲ塞ギヌ。

1、出身

安祿山ハ、營州ノ雜胡ナリシガ、驍勇ニシテ狡智ニ富ム。嘗テ幽州ノ節度使張守珪ノ部下ニ屬シ、契奚丹ヲ擊タシメシガ、大敗ス。其ノ罪ニ依リテ、斬ニ處セラレベキニ、守珪ハ、其ノ才能ヲ惜ミテ、朝廷ノ處分ヲ仰グ。瑤山、玄宗ニ見ユ。帝其ノ罪ヲ赦シ

一〇、安祿山ノ亂
ロ、反亂

テ、營州ノ都督トス。祿山ヨリ帝ノ左右ニ
仕事ス。

2、事實

祿山ハ、河東、平盧、范陽ノ節度使トナリ、
稍威權アルニ至リ、常ニ帝ノ寵姫、楊貴妃
ニ媚ビ、大ニ其ノ歡心ヲ得タリ。遂ニ兵ヲ
擧ゲテ、洛陽ヲ占領シ、長安ニ迫レリ。玄
宗、蜀ニ奔リ、位ヲ肅宗ニ讓ル。名將、名
臣等、此ノ亂ニ死スルモノ多シ。

ハ、結果

郭子儀、李光弼等ニ事ヲ任ジ、援兵ヲ得テ、反亂ヲ
平定ス。祿山ハ、其ノ子安慶緒ニ殺サレシナリ。

い、回紇

漢北ニアリ。安祿山ノ亂、漸
次倨傲尊大トナリテ、北境ニ侵

1、外國ノ
侵入

入スルニ至ル。

ろ、南詔

雲南地方ノ蠻族ニシテ四川、安
南地方ヲ掠略シタリ。

は、吐蕃

西境ヲ浸シ、且長安ニ侵入セル
コトアリ。

節度使ハ、モト一介ノ武官ナリトイヘド

モ、内地ノ節度使ハ、數州ヲ統ベ、之ヲ

一鎮トナシ、按察使ヲモ兼ネタルヲ以テ、

遂ニ土地、人民、兵馬ノ三權ヲ掌握シテ、

恰モ諸侯王ノ如ク、勢力日ニ盛ナリ。之

ニ反シテ、中央政府ハ、暗主相次ギ、官

官、事ヲ内廷ニ取リ、儉安姑息ノ策ノミ

イ、原因

2、藩鎮跋
扈

三、唐ノ
滅亡ノ

3、財政窮乏

ヲ取リタルヲ以テ、政令ハ行ハレズ。節度使ハ、一種世襲ノ官トナリ、根柢甚ク深クシテ、容易ニ拔クベカラザルニ至ル。

租庸調ノ法ハ壞レ、租税ノ徵收ハ、行ハレズ。國庫空乏、屢々新税ヲ起セルモ、其ノ効ヲ見ズ。

4、宦官跋扈

任免黜陟、天子ノ廢立ヲモナスニ至レリ。

照宗ハ、朱全忠ヲシテ、悉ク宦官ヲ誅戮セシメシカバ、誤テ殺サレシモノ少ナカラズ。

口、結果

朱全忠ハ、權勢其ノ手ニ歸シ、遂ニ照宗ヲ弑シ、帝室ヲ篡フ。之ヲ後梁ノ太祖トス。

五、五代

イ、時代：唐ノ滅亡ヨリ宋ノ統一ニ至ルマデ、五十餘年間

一、五代

- 1 後梁
- 2 後唐
- 3 後晉
- 4 後漢
- 5 後周

ハ、状態

當時國ヲ稱スルモノ十二。君主十三ヲ代フ。紛亂相次デ起リ、世道人心、地ヲ拂フ。

イ、後梁

朱全忠ノ起シタル國ニシテ、十數年ノ後、後唐ノタメニ滅サル。

晋王李存勗キョク、後梁ヲ滅シテ、父克用ニ次ギテ、晋王ノ位ニ洛陽ニ即ク。時ニ年十七。後唐ノ莊宗是レナリ。即チ兵ヲ擧ゲテ、岐

1、興起

三、五代ノ興亡

ロ、後唐

ヲ降シ、蜀ヲ併セ、黄河ノ南北、其ノ他ノ地ヲ版圖ニ歸ス。

2、滅亡

久シカラズシテ、莊宗、驕奢ニ流レ、政道ヲ怠リシカバ、後晋ノタメニ滅サル。我が紀元一五九六年ナリ。

高祖ハ、契丹ノタメニ立テラレタルヲ以テ、山西、直隸ノ兩省ニテ其ノ十六州ヲ年々金三十萬ヲ贈リテ契丹ニ臣事ス。時ニ新ニ天下ヲ得テ、藩鎮未ダ悉ク服從セズ。兵火ノ後、民間大ニ疲弊ス。契丹ノ徵求、厭クナクシテ甚ダシ。高祖歿シ、其ノ從子出帝立ツ。頗ル禮ヲ契丹ニ失ヒタルヲ以テ、契丹ノ太宗、大ニ怒リ、大舉南下シテ、大梁ニ據リ、國ヲ梁ト號ス。

ハ、後晋

二、後漢

太祖ハ、中國ノ金幣多キヲ貪リ、頻リニ兵ヲ放ツテ、四方ヲ剽掠セルガ、諸氏憤リテ、所在ニ盜起リ、之ヲ鎮壓スベカラズ。是ニ於イテ、守兵ヲ留メテ、北ニ歸リシガ、途ニシテ死ス。

後晋ノ將、劉知遠大梁ニ入り、其ノ守兵ヲ驅逐シテ、位ニ大梁ニ即ク。之ヲ後漢ノ高祖トス。

ホ、後周

後漢ニ代リテ、幾バクモナクシテ、趙匡胤ハ、後周ヲ滅シ、宋ノ太祖トナル。

一、興起

東晋ノ頃、滿州地方ニ靺鞨族アリ。唐ノ中世ニアリテ、渤海國建設セラレ。時ニ我が紀元一三七三年。國勢次第ニ強大トナル。

イ、渤海

三、渤海ト契丹

ロ、契丹

2、滅亡

契丹ノ太祖ノタメニ、侵略ヲ被リ、終ニ其ノ國都、忽汗城ヲ屠ラル、ニ至リテ滅ブ。我が紀元一五八六年。

1、興起

南北朝ノトキ、漠河地方ヲ占領シタル滿州族ヨリ起レリ。

2、太祖

唐ノ末世ニ耶律阿保機^{エリアボキ}皇帝トナル。時ニ我が紀元一五八六年。

3、勢力

回紇ノ地ヲ併吞シ、渤海ヲ滅シ、更ニ南下シテ以テ後晋ヲ興起スルヲ援ケ、太宗ハ、後晋ヲ滅シ、國ヲ梁ト號シ、太梁ニ都ス。時ニ我が紀元一六〇七年ナリ。

4、結果

漢人服スルコトナク、内亂ノ起ルコト頻繁ナルヲ以テ、北ニ歸去レリ。

六、宋、金、遼

1、中央集権

太祖朱全忠ハ、地方ノ權力ヲ抑ヘン
ト欲シ、節度使ノ權力ヲ中央ニ回收
セントス。

右ノゴトキ政策ヲ用フル所以ノモノ
ハ、五代ノ争亂ハ、其ノ跋扈ノ甚ダ
シキニ因ルモノナレバナリ。

以上ノ如クニシテ、節度使ハ、其ノ
兵力ノ權ヲ殺ガレ、從ツテ文臣ヲ以
テ之ニ補任セリ。

一、宋ノ一統…事實

2、天下ノ一統

太祖ノ弟、太宗ハ、節度使ノ獨立シテ、ヲ建ツルモノ七國アリシヲ以テ、悉ク之ヲ征服シ、以テ天下ヲ一統セリ。

3、遼ト和議

遼ハ、屢々北邊ヲ侵ス。之ヲ伐ツコト十年ニ及ベリト雖モ、成ラズ。眞宗ノトキ、大ニ兵ヲ舉ゲテ寇ス。遂ニ財物ヲ出シテ和ヲ講ズ。

4、交趾獨立

五代ノ争亂ニ乘ジテ以テ獨立ス。太宗之ヲ征服シタリト雖モ成ラズ。

い、興起

西夏ハ、吐蕃族ノ別種ナリ。唐ノ中世ニ當リテ、キルギス地方ナル夏州ニ起リ、次第ニ強大ト

5、西夏ト和議

ナレリ。李元長ハ遂ニ帝號ヲ稱シ、國號ヲ西夏ト改ム時ニ紀元一六九二年。從來屢々來リテ、西邊ヲ侵セリ。眞宗ノ子仁宗、遂ニ金帛ヲ與ヘテ和議ヲ講ジタリ。之ニ依リテ、西夏ハ、恰モ宋ト遼トニ分屬セルガ如キ、状態トナレリ。

ろ、其侵入

儒學ハ、漢唐ヨリ以來概ネ注疏ノ學ナリシガ、其ノ注疏ノ反動ト佛教ノ刺撃トニヨリテ、學風ヲ變ジ、宋代ニ至リテハ、遂ニ哲理ノ學トナレリ。仁宗ノトキ周惇

1、儒學

1、概観

願出デテ、其ノ氣運ヲ開キ、神宗ノトキ、程頤、出デ、又邵雍、讓載ノ出ヅルアリテ、二族ト名ヲ争ヒ、遂ニ宋學ノ一派ヲ啓キテ、當時ノ學者ヲ開發セリ。宋室南遷ノ後、朱熹出デ、二程ノ學ヲ祖述シ、格物以テ其ノ知ヲ致シ、居敬以テ、其ノ性ヲ養フベキヲ主張ス。實ニ宋儒ノ泰斗トシテ、長ク範ヲ後世ニ垂ル。又之ト同時ニ、陸九淵出デテ、朱熹ト對峙セリ。漢ハ、唯先人ノ踏襲ノミ。唐ハ、詳解註釋ノミ。宋ハ、躬理實踐トナルニ至レルナリ。

2、特色

3、學者

い……程頤（明道先生）。
ろ……程頤（伊川先生）。
は、朱熹ノ説ハ、専ラ窮理致知、且ツ反窮實踐ニアリ。

に、陸九淵（象山先生）ハ、専ラ徳性ヲ尊

ビ、且ツ悟入ヲ以テ主トセルナリ。

文藝ハ、唐末ヨリ漸ク衰ヘタリシガ、仁

宗ノトキ、歐陽修出デ、文ノ弊ヲ匡正

シタルヨリ、學者ノ輩出ヲ見ルニ至レリ。

詩ハ、唐ニ比シテ、稍遜色アリ。且ツ理

學ノタメニ壓セラレテ、少シク勢力ヲ失

ヒタリト雖モ、尙文ニハ、大家輩出シタリ。

1、概観

二、宋代ノ
宗問トノ
宗教

口、文學 2、特色

五代ノ巧緻精華ヲ廢シ、專ラ時文ヲ抑ヘ古文ノ復興ニカム。

歐陽修、蘇洵、蘇軾(東坡居士)、蘇轍、王安石、曾鞏等。

3、人物

い、文……蘇轍、梅堯臣、黃庭堅、
ろ、詩……蘇轍、梅堯臣、黃庭堅、
は、尙文……王十明、葉適。

ハ、宗教

佛教ハ、五代ノ末ヨリ漸ク衰ヘタリシガ、宋ノ太祖ノ保護ヲ得テ、漸ク勢ヲ恢復シ、禪宗ハ、最モ盛ニシテ、其ノ影響ハ、儒學ニ及ベリ。道教ノ如キモ亦、徽宗ノ獎勵ヲ得ルニ及ンデ、佛教ヲ凌駕スルニ及ベリ。然レドモ、南遷ノ後ハ、道佛二教トモニ、稍勢カヲ失フノ傾向アリ。

三、遼ノ聖宗ノ治

イ、政治

太祖ノ玄孫、聖宗ハ、賢明ニシテ、舊改善ヲ治マル。

ロ、所領

1、東ハ、日本海沿岸ニ達シ、西ハ、天山ニ及ビ、内外ノ蒙古ヲ包メリ。

2、遼ニ朝貢スルモノハ、高麗、吐蕃以下六十國ニ及ビ、宋ト相和シテ、東西ノ最強國トナル。

3、聖宗ノ死後、國勢漸次衰運ニ傾ケリ。

1、此ノトキ黨派ノ争、最モ激甚ヲ極メ、大官ノ交送スルコト、頻繁ニシテ、最モ甚ダシ。

い、一ハ、韓琦、范仲庵、富弼、歐陽修ハ其ノ首領トナル。

2、黨派
ろ、一ハ、呂夷簡、王拱辰等トス。

は、一ハ、兩黨ノ政府ニ出入スルコト二十年ニシテ、十七回トス。

四、仁宗ノ治ノ事實

五、遼ノ興起

イ、興起
ロ、勢威

3、仁宗在位十二年ニシテ、恭儉民ヲ愛シ、慶曆以後ハ、賢臣朝ニ滿チ、國內平穩ナリ。

4、吏治愉惰、兵備ノ振ハザルニ至ル。

5、要スルニ朋黨ノ紛争ニ過ギザルナリ。

女真ハ、黒水靺鞨ノ後ニシテ、通古種ニ屬ス。塾女真生女真ノ二大部ニ分ル。何レモ遼ニ從ヒケルガ、ク威ヲ振ヒタリシガ、遂ニ其ノ後、阿骨打ニ至リ、遼ノ天祚帝ニ背キテ、混同江附近ノ地ヲ略シ、遂ニ國號ヲ金ト號シ、帝ト稱ス。

後、塾女真ヲ降シ、遼ヲ侵シ、其ノ勢威、日ニ強大トナル。

イ、原因

1、唐ノ末世ニ於イテ、五代ノ弊ニ顧ミ、専ラ藩鎮ノ勢力ヲ殺グニ努メタリ。之ニ依リテ、兵力薄弱トナリ、且ツ外寇ニ苦シメラレタリ。

2、神宗ハ、雄心ノ勃々タルモノアリ。此ノ國辱ヲ雪ガントスルニハ、財政ヲ整理スルニ如カズトナシタリ。

1、目的

神宗賢明英氣アリ。太宗ノトキ、交趾ニ失敗シ、真宗ハ、遼ニ敗レ、仁宗ハ、西夏ニ屈辱ヲ敢テス。心大ニ之ヲ遺憾トナシ、其ノ志望ヲ成就セシメントスルニハ、富國強兵ニアリト信ジ、特殊ノ人物ヲ要スルヲ目的トセリ。

口、事實

い、富國策

A、青苗法

錢ヲ農民ニ貸與シ、秋熟ノトキ、二割又ハ三割ノ利子ヲ添ヘテ、之ヲ朝廷ニ還付セシム。相當ノ免稅ヲ納ムルトキハ、服役ノ義務ヲ免ル、コトヲ得セシメ、別ニ無職ノ民ヲ募リテ役ニ就カシム。京師ニ市易務ヲ置キ、官錢ヲ資トナシ、人民ノ貨物ト換ヘテ貸出ス

B、募役法

C、市易法

D、均稅法

ベシ。其ノ期半年ナルトキハ一割ノ利ヲ付シ一年ナルトキハ二割ノ利ヲ付スルモノトス。方一千步ヲ一步トシ、肥瘠ニ依リテ五等ニ分チ以テ稅額ヲ平均スルニ務ム。一種ノ民兵制度ニシテ十家ヲ保トナシ、保長ヲ設ケ、五十家ヲ大保トナシ、大保長ヲ設ケ

2、方法

六、王安石ノ新法

ろ、強兵策

A、保申法

五百家ヲ都保トナシ、都保ニ正副二人ヲ置ク保丁ハ、自カラ弓箭ヲ蓄ヒテ、武藝ヲ練習セシム。

B、保馬法

保丁、官ノ馬ヲ養ハントスルモノアラバ、之ヲ貸與シ、死病スルトキハ、相當ノ賠償ヲナサシム。

外國ノ經路ニ從ヒ、國威ヲ張ラントナシタリシガ、何レモ意ノ如クナラズシテ、失敗ニ歸セリ。新法ハ

ハ、結果

國庫ノ充實ヲ以テ、其ノ目的トナシタルモノナレバ、人良之ヲ喜バズ。歐陽修、司馬光等ハ、祖法ニ違フモノトナシ、盛ニ反對ヲ試ミ、且ツ當時ノ學者モ、先王ノ政ヲ破壊スルモノトナシ、極力之ニ反對ヲ唱フ。遂ニ朝廷ニアリテハ、兩派ヲ生ズルニ至リ、相争フコト三十餘年ノ久シキニ涉リヌ。

イ、金軍南下

遼ノ領地ハ、全ク金ノ有トナリ、宋ハ、唯南京附近ノ地ノミヲ獲タリ。金ノ軍ハ、宋ノ弱勢ナルニ乘ジテ、南下シ、宋軍ト相戦ヒケルガ、宋軍大敗、徽宗ハ、子欽宗ニ位ヲ譲リ、和ヲ請ヒ、聽カレズ、金帛ヲ出シ、土地ヲ割讓スル等僅ニ軍ヲシテ退カシムルコトヲ得タリ。之ヲ靖康ノ難ト云フ。

宋ノ南遷

欽宗ノ弟、高宗位ニ即ク。怯懦ニシテ戰ヲ好マズ。金ノ軍ヲ避ケテ、江南ニ遷リ、都ヲ臨安ニ定メ、國勢益振ハザルニ至ル。

1、開戦主張

宋ノ將岳飛、韓世忠等ノ如キハ、連リニ金ノ軍ヲ破リテ、學者又開戦ヲ主張スルニ至ル。

七、宋金ノ關係

八、檜秦ノ和議

2、反對派抑壓

宋ノ將檜秦ハ、斷然媾和ヲ主張シ、已ニ反對スルモノハ、悉ク罪ヲ得ルニ至レリ。又文字ノ獄ヲ起シテ、言論ノ自由ヲ抑壓シ、一言一句、嫌疑ニ及ブモノハ、之ヲ悉ク貶シタリシカバ、是レヨリ反對ヲ唱フルモノナシ。

二、金ノ頓挫

金ノ廸古乃ハ、太祖ノ孫ナリ。宋ヲ滅シテ天下ヲ一統セントセルガ、六十萬ノ大軍、采石ニ迫リ、宋ノ將虞允文ニ破ラレ、歸途弒害ニ逢ヘリ。

ホ、宋金小

宋ノ高宗、英明ニシテ銳意恢復ヲ圖リ、金ノ世宗又國ノ改革ヲ施シ、二國相親和シ、生民ノ休息ヲ得ルコト三十年。後兩國間ニ於テ、屢々和戰ノ行ハレタルヲ以テ、共ニ衰弱ス。此ノトキ、蒙古漠地ニ歸レリ。

第四編 近古 (蒙古興起ヨリ、明ノ滅亡マデ)

一、蒙古

イ、興起

蒙古ハ、蒙古種ニシテ、幹難、怯魯連二河ノ水源ナル不而罕山附近ノ地ハ、實ニ蒙古ノ根據地ナリ。世々遼、金ニ隸屬シタリシガ、部長速該ニ至リテ、漸ク強勢トナル。其ノ長子鐵木眞、義故ヲ糾合シ、諸部ヲ併吞シテ、漸ク國勢ノ挽回ヲ恢復セリ。後遼ニ内外蒙古ノ地ヲ併セ、大汗ノ位ニ幹難河上ニ即キテ、成吉思汗ト號ス。之ヲ元ノ太祖トス。時ニ我ガ紀元一八六六年ナリ。

ロ、侵略

1、南下

い、西夏 成吉思汗、塞外ヲ一統シ之ヨリ南下シテ、西夏ヲ降セリ。

ろ、金ノ和議 成吉思汗、金ト戦ヒ、之ヲ掠略セントス。金即チ其ノ勝ツベカラザルヲ察シ、河北ノ地ヲ割キ都ヲ汗ニ移ス。是ニ於テ和ヲ講ズ。

A、急轉 乃滿ノ遺族、西域ニ入り、以テ復讐ヲ圖ル。故ニ急轉シテ、西域ニ向フ。

唐末ニ至リテハ、大食國ハ漸次相衰へ、西突厥ノセルチスリ王家ハ、亞細

い、西域

一、蒙古興起

2、西征

B、西遼

亞西半ヲ領シ、屢々十字軍ヲ破リタリシガ、其ノ衰フルヤ、遼ハ、之ヲ占領シ、西遼國ヲ立テ、一時強大ナリ。其ノ孫ノトキ、乃滿ノ遺族、西遼ヲ奪ヒ之ヲ報復セントセルモ、成吉思汗ニ滅サレタリ。

A、原因

西域滅亡シ、花刺子模家ハ相隣接セルヲ以テ、成吉思汗ヲ警戒ス、益々強

2、花刺子模家滅亡

R、結果

大トナリテ、王ハ、勢力ヲ特ミ、蒙古ノ隊商ヲ殺戮セリ。成吉思汗大ニ怒リ、其ノ四子ト共ニ侵入シ、國都セミスカンドヲ陥レ、王ムハメツトハ、一小島ニ死シ、蒙古軍ノ一支隊ハ更ニ阿羅思(露西亞)ヲ侵略スルニ至ル。

- 1、...成吉思汗東歸シテ西夏ヲ滅ス。
- 2、...西夏ハ、建國ヨリ一九〇年。

三、西夏ノ滅亡

3

成吉思汗、金ヲ征略セントナシテ、半途ニ死セリ。時ニ我カ紀元一八八七年、四子ハ、各其ノ地ヲ分領セリ。

成吉思汗ハ、僅ニ二十年ヲ出デズシテ、廣大ナル版圖ヲ占領セルハ、其ノ原因種々アルベシト雖モ、其ノ主要ナルモノヲ舉グレバ略左ノ如シ。

蒙古ニハ、クルクタイト云ヘル組織アリテ、蒙古ノ諸王族、諸將及ビ諸部ノ酋長等ニ依リテ、成立スルモノナリ。此ノクルクタイナルモノハ、大會ノ推戴ヲ經ルニアラザレド、何人ト雖モ、蒙古ノ大洋

註

タルコトヲ得ズ。故ニ、蒙古ノ大洋ハ、威望アリテ、且ツ大器ヲ有スルモノニアラザレバ、大洋タルコト能ハズ。

蒙古ノ騎兵ハ、一人ニテ乘馬三四頭ヲ使用シ、彼我交代シテ、之ヲ用フルヲ以テ、乘馬ノ疲ル、コトナク、且ツ少年ノトキヨリ狩獵ヲ能クシ、騎射ヲ習フモノナレバ、其ノ騎兵ハ、甚ダ精銳ナリ。

騎兵ハ、行事ニ於テ、急ヲ要スルトキハ、馬乳及ビ其ノ乾酪ヲ食シ、且ツ馬血ヲ啜リテ、旬日ヲ支フルコトヲ得ルヲ以テ、進行極メテ迅速ナリ。

軍隊ノ組織極メテ嚴ニシテ、部長ハ、無限ノ極力ヲ有シ、其ノ事情ノ如何ニ拘ハラズ、ト長官ニ違背スルコトヲ許サズ。若シ此ノ規定ヲ犯スモノアルトキハ、貴賤ノ別ナク、嚴罰ヲ受クルコト、ナルベシ。

蒙古兵ハ、出陣ノトキト雖モ、納税ノ義務ヲ盡スモノトス。故ニ、其ノ妻ハ家ヲ守リテ、負擔ヲ果スモノナルヲ以テ、財源ノ缺乏スルコトナシ。

イ、即位

太祖ノ第三子ナリ。窩濶台ト云フ。大汗ノ位ニ登リ、都ヲ治喇和林ニ定ム。

ロ、金ノ滅

太宗ハ、弟施雷ト共ニ金ヲ侵シ、南京ニ迫レリ。是ニ於テ、金ノ袁宗、質ヲ蒙古ニ入レテ、和ヲ請ヒシガ未ダ幾バクナラズシテ、蒙古ノ使者ヲ殺セリ。太宗ハ、宋ト約シテ、金ヲ夾撃セントス。以テ南宗ヲ圍ミタリシカバ、袁宗ハ、蔡州ニ走レリ。宋ノ理宗ハ、孟珙ヲシテ、蒙古ノ兵ト之ヲ夾撃シ、終ニ金ヲ滅セリ。

ニ、太宗ノ事蹟

ハ、高麗降服

大遼ハ、高麗ノ内亂ニ乘ジテ、其ノ北邊ヲ侵略ス。蒙古ノ事、大遼ヲ降シ、高麗モ亦蒙古ニ降服セリ。

近古

四、歐羅巴

太宗ハ、東方ヲ平定スルニ及ビ、板都ヲ遣ハシテ、西方ヲ經略セシム。我ガ紀元一八九六年、五十萬ノ大軍ヲ率キテ、阿爾泰山麓ニ沿ヒ、行々沿道ノ諸部ヲ略シ、我ガ紀元一八九七年、遂ニ阿羅忍（露西亞ニ入リ、北クヤザンヲ屠リ、モスクワヲ陷レ、之ヨリ海都ヲシテポーミンドヲ侵略セシムルコトヲ命ジ、自カラ匈牙利ニ向ヘリ。海都ハ、ポーランド、シレジア等ヲ侵シ、到ル所殺操ヲ恣ニス。是ニ於テ、歐州北部ノ諸國ハ、相連合シテ、蒙古兵ヲリグニツチニ逆撃シタリシガ。却テ敗亡ス。實ニ我ガ紀元一九〇一年。歐洲全土、大ニ震動ス。海都ノ兵ハ、更ニモラヴィアヲ掠メ、匈牙利ニ向ヒタリシガ、拔都ノ

イ、即位

忽必烈ハ、宋ノ和ヲ許シ、開平ニ於テ、大汗ノ位ニ登ル。之ヲ世祖トス。

ロ、國號

號：都ヲ燕京ニ定メ、國號ヲ元ト改ム。

軍ト相會ス。拔都ハ、匈牙利王ヲサヨ河ニ破リ、進ミテペストヲ陷レ、又澳大利ヲ侵セシガ、會太宗ノ訃音至リ、東歸セリ。

1、原因

先キニ宋ノ賈似道ノ蒙古ト和ヲ約シテ歸ルヤ、臣ト稱シ、幣ヲ納ル、コトヲ匿セリ。故ニ、理宗ハ、其ノ功ヲ賞シテ、恩遇比ナク、威權、朝ヲ傾ク。蒙古ガ前約ヲ徵スルニ及ンデ、似道ハ、其ノ詐ノ露ハレンコトヲ恐レテ、使ヲ眞州ニ抑留ス。

ハ、宋ノ滅

2、結果

世祖大ニ怒リ、伯顔ヲシテ大舉南侵セシム。
 恭宗ハ、賈似道ヲ貶シテ、勤王ノ帥ヲ徵ス。兩軍相戦ヒタリシガ、宋軍降リ、文天祥等ハ、崖山ノ戦ニ擒ニセラル。佳秀等、端宗ヲ負ヒ、海ニ投ジテ、宗室亡ブ。時ニ紀元一九三九年ニシテ建國以來、三一七年ナリ。
 王忠烈王ハ、世祖ノ女ヲ納レテ、妃トナシ、全ク蒙古ノ外藩トナル。政治風俗ノ如キハ、皆其ノ化ヲ受ク。
 日本ヲ招致シタト雖モ卻ケラレ、蒙古高

1、高麗降服

三、世祖ノ一統

ニ、侵略

2、弘安ノ役

3、南方征服

1、概観

鹿ノ兵三萬、日本ニ寇セルモ、事成ラズ。是レ我ガ紀元一九三四年、後、又更ニ十萬ノ大軍ヲ發シテ、侵入セシメシカド、殆ド全滅セリ。是レ紀元一九四一年トス。
 緬甸、交趾、占城眞臘等ノ諸國ヲ降服セシメ、オテ瓜哇、蘇木都刺等ノ南洋諸島ヲモ征略セリ。
 太祖以來、僅ニ八十年ニ過ギズトイヘドモ、亞細亞大陸ノ殆ド全部及ビ歐羅巴ノ東部ハ、ミナ其ノ領土ニ屬ス。
 世祖ハ、皇帝トシテ、遼東、内地、直領、外蒙古、支那本部及ビ中央亞細

ホ、版圖

2、領地

ろ、四境

亞ヲ直接ニ領シ、高麗、吐蕃、印度等ノ如キ政治ニモ干涉ス。東ハ、高麗ニ、西ハ黒海ニ、北ハキロギス、南ハ、占城ニ達ス。

は、私領地

諸王ニ私領地ヲ與フ。其ノ最強大ナルヲ察治台汗國、窩濶台汗國、欽察汗國及ビ伊兒汗國トス。

い、伊兒汗國

アム河以西ノ地ヲ領シ、マラガアラ都トシ、旭烈兀ノ子孫之ヲ治ム。

ろ、欽察汗國

シル河以東、天山附近ノ地ヲ領シテ、阿里麻里ヲ都トシ、察合台ノ子孫之ヲ治ム。

四汗國ノ位置

は、欽察汗國

シル河以西、匈牙利以東ノ地ヲ領シテ、サライヲ都トシ、板都ノ子孫之ヲ治ム。

に、窩濶台汗國

阿爾泰山附近ノ地ヲ領シ、也運里ニ都シ、太宗ノ子孫之ヲ治ム。

イ、由來

蒙古ハ、モト北狄ヨリ興起シタリシガ、諸般ノ官制、法度未ダ備ハラズ。憲宗ノ時ニ至ルマデハ、外國ノ經路ニ忙殺セラレツ、アルヲ以テ、未ダ力ヲ内治ニ盡スコト能ハズ、世祖ハ、漢人ノ才學アルモノヲ招致シテ幕僚トナシ、新ニ官制ヲ作ラシム。

四、世祖ノ政治

ロ、中央政府

- 1、中書省…政務ヲ司ル。長官ニハ、蒙古人ヲ用ヒ、次官
- 2、樞密院…兵權ヲ握ル。
- 3、御史臺…黜除ノコトヲ司ル。以下ハ然ラズ。

ハ、地方監督行

1、行中書省
2、元帥府
共ニ地方ノ監督ヲナス。

ニ、方針…國ノ内外ヨリ廣ク人材ヲ登用ス。

鐵木心ガ、蒙古ノ大汗トナリタルヨリシテ、其ノ孫世祖ガ、宋ヲ滅スニ至ルマデ、僅ニ八十年ヲ出デズ。空前絶後ノ一大帝國ヲ樹立シ、小國ノ滅亡シタルヲ以テ、彼此商賈ノ往來ノ自由トナリタルコト。又政治上、軍事上ヨリシテ、道路ヲ開キ、宿驛ヲ設ケ、守備隊ヲ配置シタルヲ以テ、旅客ノ危険少ナクナレリ。

イ、原因

五、東西交通

ロ、事實

1、交通

い、陸路

- A、中央亞細亞—天山南路—和林—燕京。
- B、西伯利亞—天山北路—和林—燕京。

ろ、海路…波斯—印度—泉州—福州。

い、著名人物

- A、マルコポロ
- B、イブンバッタータ

ろ、内外人使用

廣ク内外ノ人物ヲ用ヒテ、政治ニ與カラシメタルヲ以テ、學者、軍人、畫家、職工等多ク外人ナリキ。

口、結果…元ノ末、明ノ初ニ至リテ、交通ハ、中止スルニ至ル。

元ハ、吐蕃ノ地ヲ得テヨリ、其ノ地ノ遠
懸ニシテ、其ノ賊ノ慄悍ナルヲ患ヒ、喇
嘛ヲ使用シテ、之ヲ撫御セシカバ、喇嘛
ノ勢ハ、日ニ強盛トナリテ、弊害百出ス

は、宗 教

最モ寛裕ナリ。故ニ十字軍
ノトキ、羅馬法王、フラン
ス王等、使ヲツカハス。世
祖ノトキニ至リテ、耶蘇教
ノ寺院ヲ大都會ニ建設セリ
喇嘛教ハ、漸次盛大トナル
ニ至ル。

註、喇嘛ノ跋扈

即チ官吏トイヘドモ、喇嘛ヲ逮捕スルコ
ト能ハザルヲ以テ、彼等ハ、人民ノ財ヲ
奪ヒ、尙ホ罪網ヲ免レ得ルモノナルヲ以
テ、賞罰ノ道ハ廢レ、且ツ納税ノ義務ヲ
有セザルモノナルヲ以テ、農夫ハ、往々
其ノ部民ト稱シ、田租ヲ納メズ。故ニ歲
入ハ、大ニ減ズルニ至リ、世祖八巴思ヲ
用ヒテ、帝師トナスニ及ビ、其ノ權、甚
ダ盛ニシテ、后妃公主ト雖モ、亦膜拜セ
ザルベカラズ。其ノ體制ノ僭、仗衛ノ侈、
財産ノ富ハ、帝者ニ擬ス。順帝ノトキニ
至リテ、最モ甚ダシカリシ。故ヲ以テ、